

平成 27 年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

目 次

I はじめに

- 1 法人総括
- 2 高齢者福祉事業総括
- 3 児童福祉事業総括
- 4 公益事業総括

II 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

- 1 特別養護老人ホーム やすらぎの家
- 2 短期入所生活介護 やすらぎの家
- 3 グループホーム ほのぼのの家

[2] うららか春陽荘 関連事業

- 1 特別養護老人ホーム うららか春陽荘
- 2 短期入所生活介護 うららか春陽荘（ショートステイ）
- 3 デイサービスセンターはるかぜ
- 4 デイサービスセンターそよかぜ
- 5 居宅介護支援事業所はるの
- 6 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）
- 7 うららかキッズガーデン（事業所内小規模保育施設）
- 8 春陽荘各種委員会報告
- 9 研修参加状況
- 10 実習・研修受け入れ

[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業

- 1 デイサービスセンター くつろぎの家
- 2 デイサービスセンターわかくさの家
- 3 小規模多機能型居宅介護 わかくさ
- 4 ホームヘルパーステーションやすらぎ
- 5 高知市在宅介護支援センター あさくら
- 6 高知市西部地域高齢者支援センター あさくら出張所
- 7 くつろぎの家 訪問入浴サービス
- 8 くつろぎの家配食サービス
- 9 高齢者住宅等安心確保事業（若草町）
- 10 総務部門
- 11 実習受け入れ状況

III 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

1 うららか保育園

2 放課後児童クラブ

IV 公益事業

1 平成福祉専門学校

V 法人各種委員会活動報告

1 人材確保対策委員会

2 総務経営委員会

3 危機管理委員会

4 教育・研修委員会

5 保健衛生委員会

6 給食委員会

7 在宅福祉推進委員会

8 高齢者生活改善委員会

9 広報委員会

I はじめに

1 法人総括

(1) 平成27年度理事会、評議員会、監事監査、内部経理監査開催状況

①理事会

開催年月日	出席者数	決議事項
27.5.26 (第183回)	11名	第1号議案 平成26年度事業報告及び決算報告 ・監事 監査報告 第2号議案 諸規程の一部改正 第3号議案 うららかキッズガーデン運営形態の変更 第4号議案 定款の一部改正
27.7.7 (第184回)	13名	第1号議案 理事の任期満了に伴う選任の同意 第2号議案 監事の任期満了に伴う選任の同意 第3号議案 第2回収支補正予算 第4号議案 諸規程の一部改正
27.7.7 (第185回)	13名	第1号議案 理事長の選任 第2号議案 常務理事の選任 第3号議案 理事長職務代理者選任
27.11.20 (第186回)	11名	第1号議案 第3回収支補正予算(案) 第2号議案 諸規程の一部改正及び特定個人情報取扱規程(案)の制定 その他 ・平成28年度に向けて高齢者福祉事業の検討 ・平成28年度に向けて平成福祉専門学校の検討 ・社会福祉法の改正
28.1.12 (第187回)	11名	第1号議案 ホームヘルパーステーションやすらぎ（訪問介護、介護予防訪問介護、移動支援及び生活サポート、指定居宅介護、重度訪問介護及び同行援護）の事業の廃止 第2号議案 くつろぎの家配食サービス事業（高知市受託事業及び独自事業）の廃止 第3号議案 介護職員養成研修事業（介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修）の実施 第4号議案 定款の一部改正 第5号議案 ストレスチェック制度実施規程制定
28.3.28	10名	第1号議案 諸規程の一部改正

(第 188 回)		第 2 号議案 平成 2 7 年度第 4 回補正予算 第 3 号議案 平成 2 8 年度事業計画 第 4 号議案 平成 2 8 年度当初予算 第 5 号議案 評議員の任期満了に伴う選任の同意 第 6 号議案 定款の一部改正 第 7 号議案 平成福祉専門学校定員削減及び学生寮の運営
-----------	--	---

②評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
27.5.26 (第 79 回)	19 名	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告及び決算報告 ・監事 監査報告 第 2 号議案 諸規程の一部改正 第 3 号議案 うららかキッズガーデン運営形態の変更 第 4 号議案 定款の一部改正
27.7.7 (第 80 回)	22 名	第 1 号議案 理事の任期満了に伴う選任 第 2 号議案 監事の任期満了に伴う選任 第 3 号議案 第 2 回収支補正予算(案) 第 4 号議案 諸規程の一部改正
27.11.20 (第 81 回)	21 名	第 1 号議案 第 3 回収支補正予算(案) 第 2 号議案 諸規程の一部改正及び特定個人情報取扱規程 (案)の制定 その他 ・平成 2 8 年度に向けて高齢者福祉事業の検討 ・平成 2 8 年度に向けて平成福祉専門学校の検討 ・社会福祉法の改正
28.1.12 (第 82 回)	20 名	第 1 号議案 ホームヘルパーステーションやすらぎ（訪問介 護、介護予防訪問介護、移動支援及び生活サポー ト、指定居宅介護、重度訪問介護及び同行援護） の事業の廃止 第 2 号議案 くつろぎの家配食サービス事業（高知市受託事 業及び独自事業）の廃止 第 3 号議案 介護職員養成研修事業（介護職員初任者研修、 介護福祉士実務者研修）の実施 第 4 号議案 定款の一部改正 第 5 号議案 ストレスチェック制度実施規程制定
28.3.28 (第 83 回)	19 名	第 1 号議案 諸規程の一部改正 第 2 号議案 平成 2 7 年度第 4 回補正予算

		第3号議案 平成28年度事業計画 第4号議案 平成28年度当初予算 第5号議案 理事の欠員補充に伴う選任 第6号議案 定款の一部変更 第7号議案 平成福祉専門学校定員削減及び学生寮の運営
--	--	---

③監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
27.5.19	川崎重幸	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告の中の高齢者福祉事業総括において、数件の不適切な事例もいくつかあったと報告されているが、今後はそういうことがないように一層の努力を職員一丸となって取り組んでいただきたい。 ・社会福祉事業は、経営が厳しい事業が複数存在している。今後の経営安定のためにも、様々な見直しが必要と思われる。また平成27年度からの介護報酬改正により更に単価が減額され、より一層の経営改善と経費削減に努めていただきたい。 ・事業が多く書類の整理も大変と思うが、わかりやすくきちんと整理されている。

④内部経理監査

監査年月日	監査者	指導事項
27.10.26 本部会計 平成福祉 専門学校	中越八束	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての会計においておおむね会計業務は適正に執行されており、各種帳簿及び証拠書類等適性に整理されていた。ただ、それぞれの事務職員により、ほぼ正確に行われている会計や、数字が度々不明瞭な会計があるなど職員による差が見られた。今後は、職員の資質向上による均一化も必要であると思われる。
27.10.27 やすらぎ の家関連		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉は介護報酬の削減により一層厳しさを増している。中でも「在宅介護センターわかくさ」は厳しく、中でもヘルパー事業と配食サービスは事業を継続することにより負債が増加しており、早急な立て直しは厳しいと思われる。他の事業への影響が少ないうちに、次年度以降の事業の中止も含めた検討が早急に必要と思われる。
27.10.28 在宅介護 センターわ かくさ関連		<ul style="list-style-type: none"> うららか春陽荘も資金的には不足しているが、所帯が大きいため大きくは目立っていない。しかし、何らか手を打たない事には今後の運営は益々厳しくなるであろう。
27.10.30		

うららか 保育園関連 うららか 春陽荘関連		<p>やすらぎの家は負債等はないものの、利用者の重度化に伴い空床の増加が目立っており、運営に大きな影響を与えている。いかに空床を減らすかが早急な課題である。</p> <p>・平成福祉専門学校も、昨年同期比で 2000 万円以上の減収となり、学生確保も年毎に難しくなっている。次年度の学生募集定員を減らすなどの対策を早急に取り、経営改善に取り組むことが急務である。</p> <p>うららか保育園は、まずまずの運営であるが、管理部門が未熟であり、さまざまな諸課題が見られる。管理教育の徹底が必要と思われる。</p>
--------------------------------	--	---

(2) 総括

平成27年度は、年度当初の事業計画に予想された通り今までにない厳しい運営状況であった。4月の介護報酬改正により、人件費を除く介護報酬は実質大幅な減額により介護保険事業等に大きな打撃を与えた。中でも訪問介護事業と配食サービス事業は継続的な運営が厳しく改善の見込みが少ないため、結果的に平成27年3月末をもって事業を廃止することとなった。そのような中でも原油価格の下落によるプロパンガスやガソリン代の値下げは運営の改善に大きな影響を与えた。また、うららか春陽荘では全館照明器具をLEDに交換し、電気代の削減にも努めることができた。

人材確保と離職の防止については、4月より常勤契約職員のほとんどを3等級職員として正規採用し、また年度途中でも随時正規職員を採用するなどして職員の待遇改善と人材確保に努めた。その結果介護職員等については若干人材確保や離職防止の役割が果たせたが、一部の職種については年間を通して人材不足が生じていた。27年度は全ての職種について新規雇用が少なく、県内の就労可能人口が減少していることが推測される。また介護福祉士を目指す人材も少なく、平成福祉専門学校も学生確保が今までにない厳しい状況となった1年であった。

施設整備等については、やすらぎの家及び平成福祉専門学校の一部屋上の防水工事を行い、うららか保育園ではテラスとプールに屋根を設置し雨天等の活用ができることとなった。

その他運営面では、各種委員会も2年目を迎え、成果が表れてきたものが見えてきた年であった。また職員の資質向上や利用者処遇の向上においては、県内外の研修や内部研修を積極的に行い、少しずつではあるが着実にレベルアップに繋がっている。

2 高齢者福祉事業総括

本年度事業計画に掲げた「経営基盤の安定と将来を見据えた取り組みを策定する」に

については、前述の法人総括のとおり介護報酬削減の影響は大きく、非常に厳しい経営状況となった。施設福祉についてはやすらぎの家、うららか春陽荘共にご利用者の入院等が多く稼働率が90%台前半となり空きベッドが多く収入減に大きく影響した。しかしうららか春陽荘ではその空きベッドを活用した空床ショート利用を増やし、年間で全体空床日数の25%程度を活用することができた。

在宅福祉では、各事業にバラツキがありまずまずの運営状況のものと、非常に厳しい運営のものと別れた年であった。ショートステイ事業は全般にまずまずの実績を上げ、デイサービスについては、若草と春野では若干の違いが見られた。また、訪問介護を始め小規模多機能型居宅介護や訪問入浴、配食サービスは厳しい状況の1年であった。その中でも訪問介護と配食サービスの事業廃止は今まで頑張ってきた職員のことを思うと非常に残念であったが、現状では継続的な運営は赤字が増大することとなり止むを得ない選択であった。

その他施設運営全般について、ご利用者の処遇全般も特に大きなトラブルもなく、まずまず満足いただけるサービスを提供することができたと思うが、行政への介護事故等の報告件数については前年より減少しておらず改善が望まれる。また、職員全般について、介護福祉士や介護支援専門員の試験等も積極的に受験する職員がおり、研修会への多数の参加も含めて、個々の意識の高さも上がってきている。

3 児童福祉事業総括

平成27年度は保育の新制度に伴い定員を120名から130名に変更してスタートとなる。4月は新入園児を含む144名の園児を受け入れた。年度途中に入園・転園等があり、3月末は148名在籍、春には27名の卒園児を小学校に送り出した。

また、職員では年度途中で産休に3名が入り、体調不良の休職者1名が出た、欠員補充の為主任保育士を保育士としてクラスに入れたので主任加算分が減額となった。特別事業の一時保育等にもパート職員を配置して受入体制を整えた。

保育士不足は運営面で大きな問題となっている現状である。職員一同が一丸となり協力をしてこの状況を乗り切る事が出来た。

園舎南側のテラスに新しく屋根を増築する事が出来雨の日でも子ども達の遊ぶスペースが広がった。

地域との交流も定着し、春野町の文化祭、南ヶ丘の夏祭り、文化祭、敬老会など子どもたちの発表の場も広がり地域に密着した施設になってきた。

4 公益事業総括

本校の定員割れが深刻な問題となっており、先行き不安な課題を抱え、介護人材の質的・量的確保には程遠い現状にある。

また平成 28 年度入学生より介護福祉士資格取得方法の変更の方向で法改正が進んでおり、国家試験受験科目外の教科の廃止等、授業のスリム化移行期間として調整した、一年であった。

介護技術講習会においても、申込み人数が予定より少なく、6 回の実施を予定していたが実際には 4 回の実施となった。

学生募集では、介護の魅力の小・中・高等学校等の出前授業、体験入学等で展開、発信し、全国平均を上回る入学生を迎えることができた。

平成 27 年度卒業生の就職希望者については、介護老人福祉施設 20 人、介護老人保健施設 3 人、医療機関 4 人、自立支援施設 9 人、有料老人ホーム 1 人、居宅サービス関連事業 3 人という就職状況になった。

Ⅱ 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連

1 特別養護老人ホーム やすらぎの家

総括

平成 27 年度の基本方針・重点目標を念頭に置きながら、反省や課題はあるもののご利用者及びご家族との関わりを大切にし、誠意を持ってサービスの向上に努めた。また、昨年度に引き続き虐待・不適切なケア防止にも取組み、外部の他施設との交換研修でも情報交換などを通し成果を得られた。

今年度は第 5 期介護保険制度改正により入所対象者は原則要介護 3 以上となり、介護報酬改正においても減額改正という厳しい経営環境のスタートを切ることとなった。そのような状況のなか、経営の要となる長期入院などがもたらす稼働率低下の影響が顕著に現れた年度でもあった。

また、2 月 3 月にかけてインフルエンザの発症により、多数のご利用者・職員が感染し対応に追われたが、職員の協力・積極的な取組みにより 3 月 23 日に終息となった。

施設整備については、建物や設備の老朽化が進む中、平成 24 年度より実施している屋上防水改修工事などの問題対処を図ってきた。

継続的に取り組んでいる防災対策については、大規模災害への対策の充実を図るため、防災マニュアル・BCP（事業継続計画）の周知、現在買い揃えた機材や備品などを実際に使った取り扱い訓練として、5 月に「災害ワーキング」を開催し職員の防災意識の向上に努めた。

介護職員をはじめ看護師や調理員などの人材確保が厳しい現状という深刻な課題を

抱えながらも、安心と信頼を支える介護サービスの充実は重要であり、今までの実績を踏まえ、地域福祉の拠点となる施設機能強化及びより良い施設運営の実現にも努める。

(1) 介護部門

平成 27 年度介護部門重点目標を念頭に、「利用者本位のケア」を全グループに周知する。現場のケアでの討議の場面では利用者本位で考える事により方向性が一つになった。又、委員会にて言葉づかいの確認を繰り返し行ったができていない部分もある。昨年度のリーダー研修会を通して、ハンドブックを作成し 4 月には事業計画の中で周知し新人研修ではさらに活用し職員の意識統一を目指している。

○そよかぜグループ

「笑顔」と「チームワーク」を目標とし、ご利用者に居心地に良い生活の場を提供できるように取り組んできたがグループ全体に浸透するまでには至らなかった。ご利用者の変化や新規採用や職員の移動等によるグループ環境の変化も職員間の信頼関係の強化につながらなかったように思う。

ご利用者の立場になって、介護職として自分のすべきことを考え実行できるグループを目指すことでご利用者の思いに添った穏やかな生活をおくっていただきご利用者の笑顔に繋げていけるよう今後も努力していきたい。

○さくらグループ 目標「心」

心を込めてご利用者ケアを行う。を目標に職員全員で努めてきた。

事故については H26 年度の反省を生かし今年度はグループ内での重大事故の発生がなく生活環境の改善や介助方法の検討をすることで減少することができた。

また、活動面では施設内での行事参加や誕生日会・遠足等行う事が出来たが、来年度はもう少し外出の機会を増やしご利用者の楽しみを増やしていきたい。

○こもれびグループ 目標「思いやり」

利用者の思いを大切に、その人らしい生活の場になるようにケアを行う。

利用者一人一人が過ごしやすい環境を目指して試行錯誤を繰り返しホールの配置変えを何度か行った。ホールが狭く限られた空間をどう使うか、ご利用者の入れ替わりや状態変化に伴い、今後もその都度検討していく必要がある。

グループ活動については、外出や買い物、グループ内での誕生日会での調理など、求められる希望を出来るだけ実現することで日々の生活に楽しみを持って頂けるように努めた。参加されたご利用者には喜んでもらうことができた。しかし、あまり要望を口にされないご利用者に対して楽しみを増やす機会が少なかった。来年度は毎日のご利用者とのコミュニケーションを大切に希望が叶えられる対応に努めたい。

○つばさグループ 目標「向上」

- ・ご利用者の生活を広げるために毎月外出を計画し実行する。
- ・研修での学びをグループで共有し、質の良いケアを提供する。

グループの目標を意識し毎月職員と行事を計画して実行すれば出来ない事はないと

感じた。昼食づくりも美味しそうに食べてくれるご利用者の顔、そして「美味しい」との声に自信が付き次へつなげることが出来た。

グループ会での研修報告、個人の深層心理について、職員の良い所を一人ひとりカードに記入し自分がこんなに思われている事を認識し大事に持って躓きそうになったら読んで明日も頑張ろうと思う。グループ、他部署との情報共有、決められたことが継続しないが今後の課題と考える。

○たいようグループ 目標「以心伝心」

今年度の目標であった以心伝心から、要望が有る方も、ご自分からの要望が確認できない方も何を希望されているのか、伝えようとされているのかを職員が考えた。そして検討し実行する事をグループ全体で意識した。又、ご利用者の希望を叶えるための行事を計画実行出来た。中でも体調不良にて食欲が低下され最後の方は大好きなそうめんしか口にされなかった方に希望を聞くと「流しそうめんを食べたい。」との希望が聞かれ、竹を取りに行きグループ全員が参加できる流しそうめんを実施した。ご本人は食欲低下、痛み、しんどさがありながらも流れて来るそうめんを楽しそうにすくい食された事にグループ全員で嬉しさを感じた。希望を聞き実行する事の大切さを改めて感じさせられた。

年間を通して入院者が多かったため具体的に現場が出来るケアを考え、環境整備・季節に応じた対応等来年度の課題とする。

ア 身体拘束廃止・虐待防止/事故防止委員会の取り組みについて

6か月に1回定例会の開催にて他部署を交えて勉強会や課題に向けて各グループの委員が中心となり、年間を通じて学び、目的をもって取り組み課題解決に繋がった。

また、毎月のグループ会の委員会にてご利用者の個別処遇について検討を行うことでご利用者ケアについて課題解決、ケアの向上に努めた。

イ 他職種の連携について

歯科医師による口腔ケア指導を継続する事により、職員の関心が高まりご利用者が経口摂取を持続出来るように努めている。又、理学療法士の指導により身体機能の低下予防、ポジショニング・シーティングにもグループで統一したケアを行ってきた。

ウ 職員研修について

年間を通じて目的を持ち研修（外部、内部）に参加する事で職員のスキルアップに繋がり、ご利用者ケアに活かす事が出来た。また、新人研修（初期、中期、後期）を継続することで、専門職としての資質向上に努めた。

エ 安全・衛生委員会について

職員の健康管理、交通安全について毎月テーマを決めて検討を行った内容を職員に周知し職員のモラル向上と健康管理に努めた。

オ ご家族、ボランティアの方々との交流について

家族会を通じて年間行事に参加して下さるご家族が年々増えてきており、職員との積極的な交流を行うなかでご家族の思いについて再確認を行いながら信頼関係作

りに努めている。余暇活動としてご利用者の楽しみの一つでもある「喫茶つどい」には継続してボランティアの方々が参加して下さっている。

(2) 介護職としての専門性を高める

重点目標の実施状況…虐待件数ゼロ、不適切ケアゼロ。

ア 年に2回身体拘束廃止・虐待防止定例委員会を実施

各グループでの対応困難事例の取り組みに向けて経過報告と他グループ間での書面にて確認を行った。「良いケアの取り組み書」の書面を作成し、ケアの中で困ったことを出し合い一人で悩まずグループ全体の事としてとらえ今後について話し合いをすることでより良いケアに努めた。「〇×シート平成28年度に向けて作成」に向けて年度末に現在の各グループの振り返りを行い現場での状況変化は有る。

定例会にて委員より平成27年度は年に2回の開催であったが他のグループ独自の取り組みを情報交換できる場が欲しい。施設全体の方向性の確認の場としても開催を増やして欲しいとの前向きな意見があった。

イ 身体拘束廃止・虐待防止検討会の実施

虐待防止にむけた職員の動機づけを行うために個別の利用者を対象にした検討シートを使用した討議が実施できた。その結果として、身体拘束の実施はなかった。

ウ 虐待防止の内部研修

各グループで対応困難事例を挙げ独自のシートを使い、数ヵ月間の取り組みを実施し、アセスメント、課題分析とプランニング、取り組みの経過とモニタリングのシートに記載して、研修の場で報告した。この取り組みを通じて、グループの職員の情報共有と一致した取り組みの必要性を学べた。

(3) ケアマネ部門

ア 施設サービス計画書の作成に関して

① サービス計画を作成するためのアセスメントに関して、当施設独自のアセスメント表1、身体機能評価シート、アセスメント表3を他職種共同で作成し、定期的実施してきた。

アセスメント表1では、既往歴、現病などの健康状態、服用している薬剤、期間中の発熱、期間中の受診・入院の有無、褥瘡のリスク、皮膚の問題などを看護職員、ケアワーカーが記載したケース記録をもとに、担当ケアマネが取りまとめて記載している。またご利用者本人の意思もケアワーカーあるいは担当ケアマネが聞き取り記載している。身体機能評価シートでは、起居、立位、歩行、着脱、整容の各動作の自立度だけでなく、低栄養、脱水、便秘等のリスクの評価に資するために、直近2ヶ月間の食事摂取量および水分摂取量、排泄の1日の回数とトイレ等で排泄があった回数、排便間隔、等々を記載する項目を盛り込んで担当ケアワーカーが評価をしている。アセスメント表3では認知症症状について担当ケアワーカーが評価している。身体機能評価シートとアセスメント表3は最終的に

担当ケアマネージャーがその内容を吟味したうえで、サービス担当者会に提出する。

- ② モニタリングについては、的確に実施するように努めた。モニタリング原案の項目を担当ケアマネが作成して、担当ケアワーカーに記載を依頼する。担当ケアワーカーはケアプラン項目のチェック表に集計に踏まえて原案の素案を記載し、担当者会議の一週間前までに担当ケアマネに渡す。担当ケアマネは、その内容を吟味して、訂正、補足をしてサービス担当者会議にモニタリング原案として提出する。またモニタリング原案の中に、在宅復帰についての項目を設け、キーパーソンを含むご家族の状況に踏まえて、在宅復帰の可能性について担当ケアマネの意見を原案として提示する。
- ③ ケアプラン原案についても、今年度は確実に作成するように努めた。ICFの生活機能理論に踏まえて、生きがいの目標、活動の目標の関して担当ケアマネの意見を項目的にて提示した。そしてそれに基づき、前回作成したサービス計画書(2)を修正または継続してケアプラン原案を作成し、担当者会に提出をした。
- ④ サービス担当者会議には、ご利用者本人および家族が多く参加できるように調整した。

ケアマネが主催し、上記のアセスメント表1~3、モニタリング原案、ケアプラン原案素案、ケアプラン原案を順次説明し、ケアワーカー、看護師、管理栄養士、ケアマネがそれぞれの領域ごとに専門的な意見を述べ、本人・ご家族の意向をお聞きし、新しい計画について本人・ご家族と施設職員の合意を作り、ケアマネが取りまとめるかたちで担当者会を実施した。在宅復帰の可能性についても、ご家族の意向に踏まえて検討し結論を出す。

また、サービス担当者会は、当ご利用者の介護保険の要介護度更新認定時にできるだけ合わせて実施するように努めた。

- ⑤ サービス担当者会議後、担当ケアマネはモニタリング原案、ケアプラン原案、ケアプラン原案を加筆修正して、サービス計画書(1)、サービス計画書(2)、サービス計画書の要点(第5表)を仕上げ、できるだけすみやかにご家族に送付した。
- ⑥ サービス担当者会議にご家族が参加できない場合には、ご家族の意向の聞き取りをして、サービス計画作成に反映させるように努めた。また担当者会議の開催後、電話等で討議した内容を報告し、ご利用者の状態および施設サービスの内容を十分理解していただくように努めた。電話で聞き取りをした内容はサービス計画書(1)に記載した。

エ 機能訓練の取り組みについて

- ① 身体機能面で維持向上の課題があるとケアマネが判断したご利用者に関しては、ケアプランに挙げて意識的な取り組みを実施した。専門的なりハビリが必要なケー

ス、新規入所者でリハビリ内容の評価が必要なケースなどは PT あるいは OT にリハビリ業務を担ってもらっている。それ以外は PT、OT などの専門職の指示に基づいて、ケアワーカーが簡単な訓練を実施した。

- ②PT あるいは OT が実施しているリハビリ内容は記録に残して、他職種に周知する体制をとっている。またご家族からの要望がある時にはケアマネが要望を聞き取り、PT あるいは OT に伝えてスケジュールを調節して、出来るだけ希望に沿いながら、リハビリが実施されるようにした。PT あるいは OT とケアワーカーの協働体制でご利用者の身体機能の維持向上をはかる体制をとっている。

(4)看護部門

ご利用者の健康管理に努め、施設生活での安心した生活を送れるように早期発見、早期対応を目指した。職員の健康管理は、定期健診、職場内検診、腰痛対応策を実施し、健康面のサポートに努めた。

ア ご利用者の個別健康管理を充実する

日々の健康状態の管理、また、他職種との連携により、疾患などに対して早期発見できるように努めた。特に慢性疾患（心不全・COPD・糖尿病など）を持つご利用者の状態観察と病状悪化の早期発見・早期対応に努めた。

イ 感染対策に努める

感染対策として、日々、職員への周知や研修を行った。季節的なインフルエンザやノロウイルスなどの集団感染症について、施設内で全職員がマニュアルの厳守を徹底し、予防に努めた。H27年11月に計4回の施設内の介護・看護職全員を対象に吐物処理についての研修を行った。

インフルエンザについて27年度はインフルエンザ予防接種を11月職員、12月ご利用者が受けた。しかし、流行期が2月、3月となり2月4日～15日までご利用者8人、職員3人、3月5日～23日までご利用者11人、職員11人が罹患した。

その後終息したが、今後はさらにバイタルサイン観察・他職種との連携を密にし、感染予防・拡散予防対策を徹底するため、保健所等から勉強会に積極的に参加していく。

ウ 肺炎・誤嚥性肺炎の発生予防に努める（口腔ケアの強化）

細菌性肺炎および誤嚥性肺炎の予防のため、口腔ケアの強化に努めた。その結果、誤嚥性肺炎は平成26年度より入院者数が減少した。経管栄養で口呼吸の方は口内乾燥予防への指導・実施に努めた。さらに必要時吸引の実施を行った。

65歳以上の高齢者肺炎球菌予防接種対象通知のご利用者で、摂取希望者は10名で朝倉病院にて接種を実施した。

エ 尿路感染症の予防に努める（排泄ケアの見直し）

陰部洗浄の必要性の指導と排泄ケアの見直しを行い、尿路感染症予防に努めた。今後はさらに「水分摂取・陰部洗浄強化」を行っていく。

オ 蜂窩織炎の予防に努める

蜂窩織炎の既往のある方や、血行障害のあるご利用者様、反復性の蜂窩織炎のご利用者は、特に皮膚状態の観察と白癬治療を徹底して行った。好発部位のみでなく全身の皮膚観察、治療・再発防止に努めた。

カ 褥瘡予防の取り組みを行う

出来てからの処置でなく、褥瘡予防の取組を行った。年1回職員研修を実施し、実践に生かした。

OHスケールや食事摂取状態等、褥瘡発生のハイリスクの利用者は特に注意して皮膚状態の観察を行い、上期11名（2名入院先にて発生）・下期3名（1名入院先にて発生）の褥瘡発生がみられたが、早期発見・早期対応で悪化予防ができ、早期に治癒することができた。

キ 職員検診

各健康診断を行い、職員の健康管理にも努めた。

全職員対象に年1回の健康診断と夜勤者対象とした年2回の健康診断を実施した。腰痛予防の検診は、ケアワーカー・厨房・看護師対象に年2回行った。

ク 機能訓練について

ご利用者の身体機能の維持向上を図るために、またサービス担当者会議で計画書を作成しそれに基いて計画的に実施していった。サービス担当者会に参加し、残された機能を最大限に活用し、機能低下予防と維持向上のための計画を行った。

朝倉病院の作業療法士が毎週月・水の午前中に、理学療法士が毎週土曜日に、機能訓練を実施した。専門的な機能訓練が必要なご利用者および新規ご利用者を対象にして機能訓練を実施した。関係職員が連携を取り、その指導内容を担当ケアマネ、現場のCWに報告し周知徹底を図る。理学療法士による機能訓練の指導内容をケアマネが立案するケアプランに反映させて、統一して効率的な実施を図った。

PT・OTへの必要なケースについては、相談し、助言のもと、スタッフ間で情報共有し、日常生活に生かしていく事が出来た。

ケ 平成27年度 受診・入院状況（実人員）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
受診	41	32	44	48	28	39	42	28	46	29	33	49	459	38.2
入院	13	16	5	10	17	7	6	10	7	7	11	14	123	10.2

コ その他

肺炎球菌ワクチン補助事業は2年を経てご利用者の方19名が接種された。今後も肺炎予防に向け、ご利用者・ご家族の希望に応じて、予防接種勧奨を行いたいと

考える。

褥瘡ケアの考え方は、変化してきており、外部研修に参加し、知識の習得、実践で日々のケアに生かしていきたいと考える。

身体機能低下防止や維持向上・QOL向上に向けて、今後も関係職種との連携を図っていく。職員の健康管理にも努め、よりよい支援が提供できる環境を関係機関と協働し築いていく。

H27年度の介護保険改正に伴い、入所要件が要介護3以上となり、重度化するご利用者に対応できるよう内部・外部研修に積極的に参加し、職員体制・業務内容の見直し、強化をしていく。

(5) 給食室

やすらぎの家は、ご利用者にとって生活の場、食事の楽しみは大きな部分を占めている。献立は季節を感じて頂けるよう旬の材料を使い、家庭的で楽しい食事を心がけた。柔らか菜、きざみ菜、とろみ極、ミキサー、ソフト食や糖尿食、減塩食などの療養食の増加、食事形態も複雑になっている。ソフト食は、普通食と同じ食材を展開させ、見た目にもおいしそうと感じて頂けるよう型で抜いたりして職員がそれぞれ工夫した。ショートステイや配食サービスのご利用者も療養食や禁止食品のご希望が多くなり、できるだけご希望に添えるようにした。

ア 栄養ケア計画

管理栄養士はグループ会、担当者会には、できるだけ参加しご家族やご利用者のご希望に添った食事への思いを栄養ケア計画の中に入れるようにし 106名の栄養ケア計画を実施した。ご利用者一人一人の必要栄養量を計算し、施設の平均ではなく個人の必要量で食事を提供試した。

低体重、低栄養のご利用者には、多職種で検討し、補助食品を提供し改善を心掛けた。利用者の重度化、高齢化が進み、ソフト食、ミキサー食のご利用者が増え栄養が充分確保できるよう気を付けるようにした。

イ 誤嚥の予防

トロミ食品や水分補給用のゼリー、お茶ゼリーなどで、誤飲予防や咽込みのあるご利用者水分補給に対応した。ソフト食は、普通食と同じ食材から展開し見た目にきれいに型で抜いたり焦げ目をつけたり工夫した。柔らか菜は、継続し提供をしている。

ウ 居酒屋

各グループの参加ご利用者が、多くなり普段食事摂取量の少ないご利用者も雰囲気が変わって摂取量が増えたり、ほかグループのご利用者同士の交流もできている。

ご家族の参加が少なかったのは残念である。

エ 行事食

四季の行事は、季節を感じて頂けるよう、おせち料理、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、敬老の日、クリスマスなど楽しんでいただける献立を入れた。

またグループ活動でのケーキづくりや恵方巻きなどを行う時は、給食室のスタッフも参加し、一緒に楽しい時間を過ごした。普通食以外のきざみ、極きざみ菜など工夫はしているが、なかなか見た目にきれいとは言い難く、今後の課題である。

オ その他

口から食べる食事にこだわり、充実した食事、見た目のきれいな楽しい食事の提供心がけ、ご利用者の声を聴き、利用者に関わることを目標にしていたが、年間を通し調理員の人員不足が続き、十分達成できたとは言えず、次年度へ課題である。

給食職員全員が、プロとしての自覚を持ち、目標達成できるようにしたいと思う。

	エネルギー	蛋白質	カルシウム
基準	1424 k Cal	57.3 g	600m g
H27 年度実績	1414 k Cal	59.8 g	620m g

(6)事務部門

ア 施設窓口としてご利用者やご家族、来客に対して明るく親切・丁寧な対応に努めた。

イ 日常業務においては業務の正確性と効率化を図るため、業務手順書の作成・整備を継続して実施している。

ウ 大幅な介護報酬減収により厳しい経営状況を想定していたが、職員一人一人にコスト意識が浸透したことで、計画通りの経費削減が実施できた。

エ 退職者の欠員補充に時間がかかり現場スタッフには迷惑をかけてしまったが、良い人材の確保ができた。

オ 前年度に引き続き、大規模な防水工事とそれに伴う内部の補修工事を実施した。

カ ご利用者の居室及び生活する場の安全を確保するために、窓ガラス飛散防止フィルムの貼付を実施した。

(7)生活相談員部門

ア サービス内容調査アンケートについて

サービスの利用満足度を高める為、平成 18 年度より実施している施設サービス内容調査アンケートを全ご利用者（ご家族）対象とし、以下の項目について実施した。

- ①食事・排泄・入浴・身だしなみ等の介護サービスに関して
- ②傷の手当、病院受診、リハビリ等の医療サービスに関して
- ③施設内の環境美化面に関して
- ④ご家族との報告・連絡・相談に関して
- ⑤転倒・誤薬事故、感染症予防等の安全管理に関して
- ⑥事故発生時等、緊急時の対応に関して
- ⑦人権擁護、プライバシーの尊重に関して
- ⑧施設の情報開示に関して

アンケート結果の集計・評価・検討会を実施し、今後の改善策について各部署責任者と検討の場を設け、アンケート結果と改善策について全職員へ周知を行った。又、ア

ンケートの評価・検討事項と改善策をやすらぎの家家族懇談会にて報告し、分科会にて出されたご家族様からの意見を汲み取り、ご利用者・ご家族のサービス利用満足度の向上に努め、施設サービスの内容の充実に取り組んだ。

イ ご家族との連携について

① やすらぎファミリーの窓口として、ご家族と共に行事（ご家族様にも参加して頂ける行事）や年2回実施している家族会主催の館内清掃、納涼祭でのバザーやキッズコーナーの開催にも企画の段階より関わりを持ち対応した。又年2回の家族懇談会の実施に伴い、施設側とご利用者・ご家族との連携を図る事に努めた。

② 御家族の方にも施設行事等への参加を各グループチーフと共に呼びかけ、ご利用者と御家族に参加して頂ける行事を企画し参加して頂いた。又、自宅帰省等の外出時の送迎援助を行い個別ケアの充実に努めた。

ウ ボランティア窓口について

ご利用者の個別のニーズを充足させる為に地域のボランティアの活用等を目的に、ボランティアの受け入れ窓口となり鳴子踊りや餅つき、車いす清掃等たくさんのボランティアの方々に来園して頂いた。又、地域の保育園からの慰問、高知商業高校の福祉体験授業の受け入れや平成福祉専門学校との交流を実施した。又、今年度については、広報委員会主催の施設外活動として、朝倉・針木地域で開催されたイベントに参加させていただいた。

エ 短期入所生活介護（ショートステイ）

短期入所生活介護（ショートステイ）の受け入れ窓口として思いやりを持った対応を心がけ、在宅で生活されている方々の日常生活動作の維持という観点を大切にし、ご利用者・ご家族共に安心してショートステイのサービスを利用して頂けるように努めた。

① 在宅生活で行っている生活習慣にできるだけ同じ形でのサービスの提供を心掛け、個別のアセスメントを実施し、ご利用日までに介護スタッフに申し送りを行い、介護スタッフの協力の元、個別に求められるニーズに応える事ができた。

② 御家族との関わりを大切にするサービスの提供を目指し、話しやすい・相談しやすい窓口としての役割に努めた。又、ショートステイご利用中の御本人の状態に対してもこまめに報告し必要であれば医療機関への受診についても援助を行った。

③ 軽微な医療行為を必要とされるご利用者についても、他職種職員と連携し積極的に受け入れを行った。サービスを利用する事で、ご家族のレスパイトケアに繋がり在宅生活を継続する事が出来る様にサポートを実施した。

④ 居宅介護支援事業所の担当介護支援専門員や他のサービス提供事業所との連携も密にし、利用日以外のご本人の状態把握に努めた。又、ショートステイ利用期間中にご利用者の状態変化があれば連絡・報告・相談を行い、必要であれば

かかりつけ医療機関の主治医や看護師とも連携を図り、各ご利用者の状態にその都度対応できるようにサービスを提供した。

オ 入所について

- ① 当施設入所に関する指針を基に、当施設への入所業務を進め、入所希望者に対して説明・相談、入所希望をされる方々の施設見学の対応も積極的に行った。又、担当の居宅介護支援事業所や医療相談室との連携し、入所希望者に関して介護の必要性の程度及び家族等の状況を勘案して指定介護福祉施設サービスを受ける必要性が高い方の調査と優先入所候補者に関して、変化があるかどうかの調査を実施した。
- ② 入所申し込み者の中から、優先入所候補者のリストに挙げてリストの中で順位づけをする場合の判断基準を明確にして、毎月の入所判定委員会の会議録に記載するようにした。又、入所希望者に対しての調査を実施し入所の意向調査を実施した。

Ⅱ. やすらぎの家短期入所（ショートステイ）事業

やすらぎの家（短期入所） サービス利用状況（介護保険請求者数による）

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護計
4月	延べ			52	108	108	56	53	285
	実利用			7	11	11	6	5	30
5月	延べ			37	14	150	24	62	292
	実利用			4	3	12	3	6	28
6月	延べ			37	14	150	24	62	287
	実利用			4	3	12	3	6	28
7月	延べ			31	17	154	32	59	293
	実利用			4	3	13	4	5	29
8月	延べ			30	25	138	61	49	303
	実利用			4	5	11	4	4	29
9月	延べ			24	15	118	46	71	274
	実利用			3	4	10	4	5	26
10月	延べ			34	24	114	54	75	301
	実利用			5	3	11	6	6	31
11月	延べ	7		11	31	126	53	71	301
	実利用	1		3	5	11	6	5	31
12月	延べ			16	39	115	62	77	309
	実利用			3	5	11	6	6	31
1月	延べ			30	25	117	69	47	288

	実利用			4	3	11	6	5	29
2月	延べ			8	23	106	65	47	250
	実利用			2	3	11	6	5	27
3月	延べ			21	23	93	70	40	247
	実利用			4	4	9	6	3	26
合計	延べ	7		333	247	1470	634	720	3430
	実利用	1		48	41	131	62	60	344

(8) やすらぎの家 入所者状況 (やすらぎの家 ご利用者状況)

市町村	高知市	土佐市	須崎市	香南市	四万十市	越知町	本山町	土佐町	いの町	中土佐町	中芸広域	黒潮町	計
男性	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
女性	70	5	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	87
計	87	7	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	106

年齢別人員 (平成27年3月31日現在)

性別	～65	65～75	75～85	85～95	95～105	合計	最高	平均
男	2	2	11	5	0	20	92	80.4
女	3	4	26	46	7	86	97	86.2

月刊入退所状況 (平成26年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0
	女	3	2	3	3	3	4	4	3	1	0	2	1
	計	3	2	3	3	4	5	5	4	2	0	3	2
退所者	男	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0
	女	0	3	3	3	4	6	2	3	1	0	4	1
	計	0	3	3	4	5	6	3	4	2	1	5	1
月末人員	男	19	19	17	15	16	18	19	19	17	16	19	19
	女	82	77	83	80	76	78	81	80	80	79	78	78
	計	101	96	100	95	92	96	100	99	97	95	97	97

サービス利用状況 (サービス実施状況まとめより) H27.3.31

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	旧措置1	旧措置2	旧措置3
4月	延べ	60	142	915	1084	743	30	4	60
	実利用	2	5	32	37	27	1	1	2

5月	延べ	31	113	911	1105	776	31	31	11
	実利用	1	4	30	38	28	1	1	2
6月	延べ	30	120	858	1135	438	30	23	0
	実利用	1	4	29	39	27	1	1	0
7月	延べ	31	124	912	1170	758	31	0	0
	実利用	1	4	32	40	28	1	0	0
8月	延べ	31	118	847	1122	744	31	0	0
	実利用	1	4	30	40	28	1	0	0
9月	延べ	30	102	710	1253	723	30	0	0
	実利用	1	4	24	47	26	1	0	0
10月	延べ	0	151	724	1409	747	31	0	0
	実利用	0	5	26	49	25	1	0	0
11月	延べ	30	120	754	1350	655	30	0	0
	実利用	1	4	26	48	27	1	0	0
12月	延べ	31	124	732	1456	683	31	0	0
	実利用	1	4	25	48	24	1	0	0
1月	延べ	31	124	646	1444	696	31	0	0
	実利用	1	4	22	50	24	1	0	0
2月	延べ	29	116	652	1318	617	29	0	0
	実利用	1	4	25	48	26	1	0	0
3月	延べ	31	117	823	1282	708	31	0	0
	実利用	1	4	27	45	26	1	0	0

平成26年度 年間行事

月 日	行 事 名	来園者	施設側
4月3日	花見(たいよう) 針木浄水場		28名
4月18日	家族懇談会	33名	
5月7日	災害ワーキング		
5月11日	春の遠足(こもれび) わんぱーく高知	2名	7名
5月25日	春の遠足(さくら) 牧野植物園		5名
5月26日	春の遠足(つばさ) 牧野植物園		3名
6月7日	施設内清掃(やすらぎファミリー)	30名	
6月10日	紫陽花見学(そよかぜ) 春野あじさい神社		5名
6月15日	紫陽花見学(そよかぜ) 春野あじさい神社		2名
	紫陽花見学(こもれび) 春野あじさい神社		1名

	紫陽花見学（さくら） 春野あじさい寺		2名
6月16日	紫陽花見学（つばさ） 種間寺		3名
	紫陽花見学（たいよう） 種間寺		6名
6月17日	防災訓練		
6月25日	春の遠足（たいよう） 西島園芸団地	1名	4名
8月7日	納涼祭		
8月11日	鳴子踊り子隊来園（ユースホテル協会）	40名	
8月24日	鳴子踊り子隊来園（くじら連ふくし丸）	15名	
9月21日	敬老の日行事（鯉のたたき実演、歳祝いの会、JA朝倉女性部による歌と踊り）	20名	
9月28日	慰霊祭	1名	8名
10月8日	さんま祭り（たいよう）		28名
10月24日	家族懇談会	30名	
11月6日	秋の遠足（そよかぜ） 西島園芸団地		3名
	秋の遠足（こもれび） 西島園芸団地		3名
	秋の遠足（さくら） 西島園芸団地		3名
11月8日	施設内清掃（やすらぎファミリー）	24名	
11月12日	菊花展見学（たいよう）		7名
11月16日	菊花展見学（そよかぜ）		2名
11月27日	保育園児とのふれあい （朝倉中央保育園・木ノ丸保育園）	49名	
12月9日	防災訓練		
12月15日	餅つき		
1月1日	初詣（たいよう）		25名
1月13日	初詣（そよかぜ） 種間寺		4名
1月21日	初笑い新年会		
3月31日	花見（そよかぜ） 針木		7名
	花見（こもれび） 針木		8名
	花見（さくら） 針木		8名

*上記以外にも、居酒屋（月1回）、グループ毎に毎月の誕生日会や、季節の行事（節分の豆まき、クリスマス会等）、外出（買い物、外食、ドライブ、散歩等）を行いました。

H27年研修参加者名簿

日程	研修名	場所	開催者
4月17日	高知県老施協総会	高知会館	

5月15日	中央Bブロック栄養士勉強会	福祉交流プラザ	老施協
6月3日	高知県社福法人経営者協議会総会	三翠園	
6月5日	食と栄養の会総会 研修会	高知城ホール	
6月10日	新任職員研修会	福祉交流プラザ	県社協福祉研修センター
6月13日	新任職員研修会	福祉交流プラザ	介護福祉士会
6月17日	マイナンバーセミナー		
6月24日	社会保険事務講習会	高知会館	
6月27日	野島断層見学	兵庫県	危機管理委員会
7月4日	高知ふくし機器展 セミナーについて	福祉交流プラザ	社協
7月27日	介護保健施設等集団指導実地について	あんしんセンター	高知市指導監査課
7月28日	四国老人福祉施設関係者研究大会	サンポート高松	県社協
8月21日	中央Bブロック栄養士勉強会	コスモスの里	老施協
9月2日	社福友愛福祉会情報交換会		県社協
9月3日	社福友愛福祉会講演会		県社協
9月4日	高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議	あんしんセンター	
9月4日	中央Bブロック生活相談員ケアマネ勉強会	コスモスの里	県社協
9月9日	指導職員研修会	福祉交流プラザ	県社協
9月24日	中堅職員ステップアップ研修	福祉交流プラザ	県社協
	管理者向け職場での腰痛予防基本研修	福祉研修センター	県社協
9月25日	中央Bブロック事務職員勉強会	在宅介護センターわかくさ	老施協
10月7日	感染症研修会	あんしんセンター	高知市保健所
10月14日	県老施事務職員研修会	特別養護老人ホーム夢の丘	老施協
10月15日	早蕨交換研修	特別養護老人ホーム早蕨	
10月22日			
10月23日	中間管理職研修会	高知会館	老施協
10月27日	マイナンバー実務対応セミナー	福祉交流プラザ	県社協

11月9日	民間福祉施設職員合同合宿研修	ホテルルポール麹町	社会福祉振興試験センター
11月15日	玩具療法の効果と実践	あざみの里	県福祉レクリエーション研修会
12月1日	清潔ケア・基礎研修	福祉交流プラザ	福祉研修センター
12月9日	四国ブロックカンントリーミーティング	東京第一ホテル松山	全国老施協
12月10日			
1月13日	清潔ケアアドバンス研修	交流プラザ	福祉研修センター
1月14日			
1月15日	介護中央Bブロック勉強会	交流プラザ	高知県老施協
2月5日	高知県老施協 21世紀委員会総会 高知カンントリーミーティング	三翠園	高知県老施協 21世紀委員会
2月23-26日	日赤救急法救急員養成講習	平成福祉専門学校	日赤

平成27年度 ボランティア・施設見学等来園者状況

定期ボランティア 喫茶つどい(週2回)

来園月日	団体(個人)名	来園目的	人数
4月18日	やすらぎファミリー	懇談会	33名
6月7日	やすらぎファミリー	館内清掃	30名
8月7日	やすらぎファミリー	納涼祭手伝い	5名
	平成福祉専門学校	納涼祭手伝い	15名
8月11日	ユースホステル協会	鳴子踊り	40名
8月24日	くじら連ふくし丸	鳴子踊り	15名
9月21日	JA朝倉支所女性部	敬老の日行事 歌と踊り	20名
10月18日	なかよし会	カラオケ	8名
10月24日	やすらぎファミリー	懇談会	30名
11月8日	やすらぎファミリー	館内清掃	24名
11月25日	高知商業高校	施設体験	35名
11月26日	高知商業高校	施設体験	35名
11月27日	朝倉保育園	利用者との交流	26名
	木の丸保育園	利用者との交流	23名
11月30日	高知商業高校	施設体験	35名
12月2日	NTT OB	車椅子清掃	16名

12月14日	高知商業高校	施設体験	35名
--------	--------	------	-----

*上記以外でも、隣接する「平成福祉専門学校」の学生が授業の一環として、又、介助ボランティアとして、やすらぎの家へ来園し、ご利用者の方々と触れ合っています。

2 短期入所生活介護(ショートステイ)

短期入所生活介護(ショートステイ)の受け入れ窓口として思いやりを持った対応を心がけ、在宅で生活されている方々の日常生活動作の維持という観点を大切に、ご利用者・ご家族共に安心してショートステイのサービスを利用していただけよう努めた。

在宅生活で行っている生活習慣にできるだけ同じ形でのサービスの提供を心掛け、個別のアセスメントを実施し、ご利用日までに介護スタッフに申し送りを行い、介護スタッフの協力の元、個別に求められるニーズに応えることができた。

ご家族との関わりを大切にするサービスの提供を目指し、話しやすい・相談しやすい窓口としての役割に努めた。又、ショートステイご利用中のご本人の状態に対してもこまめに報告し必要であれば医療機関への受診についても援助を行った。軽微な医療行為を必要とされるご利用者についても、他職種職員と連携し積極的に受け入れを行った。サービスを利用する事で、ご家族のレスパイトケアに繋がり在宅生活を継続することが出来るようにサポートを実施した。

居宅介護支援事業所の担当介護支援専門員や他のサービス提供事業所との連携も密にし、利用日以外のご本人の状態把握に努めた。また、ショートステイ利用期間中にご利用者の状態変化があれば連絡・報告・相談を行い、必要であればかかりつけ医療機関の主治医や看護師とも連携を図り、各ご利用者の状態にその都度対応できるようにサービスを提供した。

緊急ショートステイ事業(2床)についても対応を行い、在宅で生活されている高齢者の方々が介護者の急病等の緊急時に受け入れを行い、適切な援助を受けながら施設で安心して生活を送れる事で家族介護者に休息・療養の時間を提供した。平成26年3月末をもって緊急ショートステイ事業は終了となったが、今後も継続して緊急時の受け入れ体制を整えることで在宅生活の安心確保を目指したい。

やすらぎの家(短期入所) サービス利用状況 (介護保険請求者数による)

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護計
4月	延べ			55	32	65	37	274
	実利用			8	5	6	6	33
5月	延べ			65	27	79	46	293
	実利用			12	5	9	6	39

6月	延べ		5	50	24	97	40	307
	実利用		1	8	4	9	5	35
7月	延べ		3	27	34	88	42	281
	実利用		1	6	4	11	4	33
8月	延べ			29	26	83	55	288
	実利用			6	5	9	4	32
9月	延べ			33	27	88	32	274
	実利用			7	5	9	3	32
10月	延べ			41	31	96	36	300
	実利用			8	6	11	4	37
11月	延べ		10	49	27	102	27	297
	実利用		1	10	4	11	3	36
12月	延べ		2	38	29	107	22	288
	実利用		1	8	5	11	3	37
1月	延べ			40	20	98	50	274
	実利用			7	3	12	5	33
2月	延べ			43	15	76	57	254
	実利用			7	2	10	6	33
3月	延べ			29	18	118	55	280
	実利用			4	3	15	6	33
合計	延べ		20	499	310	1097	499	3410
	実利用		4	91	51	123	55	413

3 グループホーム ほのぼのの家

訪問看護師による週1回の健康管理の実施や、体調不良時の対応も看護師と24時間体制で医療連携を図ることが出来るようになり、ご利用者やご家族に安心して頂けるようになった。又、管理栄養士の献立に基づき栄養バランスのとれた食事を提供することが出来た。

環境面ではご利用者間のトラブルが日常的にあり、長時間1階リビングで過ごす事が困難になっている為、トラブルになる前にご利用者に2階で過ごして頂く等の配慮し対応を行っているが根本的な改善には至っていない。

ご家族との信頼関係については、日頃より連絡を密にとりカンファレンスへの参加、餅つきや遠足、敬老会・新年会等、行事への参加を呼びかけ、交流を深める機会を持つようにしている。又、傾聴・生花・ビューティー等のボランティアさんが定期的に来所

してくださり楽しいひと時を過ごす事が出来た。地域住民の方々には餅つきや防災訓練・AED研修に参加して頂く事ができ地域との関わりを持つ機会に繋がった。

職員研修については、法人内部研修はもちろんの事、外部研修にも参加させて頂き、県外の施設と情報交換もでき職員のスキルアップ、意識改革にも繋がったと思われる。

(1) 利用状況

①介護状態		②入居者年齢別		③入居前状況		
要介護1	1名	70歳～80歳	1名	自宅	1名	
要介護2	3名	81歳～85歳	5名	老健	0名	
要介護3	2名	86歳～90歳	0名	病院	6名	
要介護4	2名	90歳～95歳	3名	その他	2名	
要介護5	1名					
④日常生活自立度		⑤認知症の程度		⑥日常生活動作状況		
J I	0名	I	0名	歩行	自力	6名
J II	0名	II a	1名		一部	2名
A1	6名	II b	4名		車椅子	1名
A2	3名	III a	2名	食事	自力	7名
B1	0名	III b	2名		一部	1名
B2	0名	IV	0名		全介	1名
C1	0名			入浴	自力	1名
C2	0名				一部	6名
					全介	2名
				着脱	自力	5名
					一部	3名
					全介	1名
				排泄	自力	3名
					一部	4名
					全介	2名

(2) 入退所・入退院状況

入所者 2名 退所者 2名

入院者 5名 退院者 4名

入院数は延べ10名であったが、インフルエンザ、ノロウイルス等集団感染は見られなかった。

入院状況

7月 1名 急性肝機能障害。
 8月 3名 てんかん、蜂窩織炎、肺炎。
 9月 1名 肺炎。
 11月 2名 肺炎、ペースメーカーOP。
 12月 1名 肺炎。
 1月 1名 肺炎。 退所者1名。新規入所者1名。
 2月 1名 肺炎長期療養の為、退所。新規入所者1名。

※1月に1名のご利用者がご家族の都合により、他の施設に入所となる。

女性	45	1	3	1	1	1	1	1	54
男性	25	0	1	0	0	0	0	0	26
計	70	1	4	1	1	1	1	1	80

イ 年齢別人員

	～ 65 歳	65 ～ 70 歳	70 ～ 75 歳	75 ～ 80 歳	80 ～ 85 歳	85 ～ 90 歳	90 ～ 95 歳	95 ～ 100 歳	100 歳 以上	計	平均 年 齢	最 高 年 齢	最 低 年 齢
男性	0	0	0	2	3	14	6	1	0	26	86.9	92	73
女性	0	2	1	4	8	14	17	7	1	54	87.7	101	65
計	0	2	1	6	11	28	23	8	1	80	88.2		

ウ 月間入退所者状況

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
入所者	男	1	0	1	2	1	0	1	4	1	1	2	1	15
	女	0	0	1	0	1	1	3	0	1	0	0	3	10
	計	1	0	2	2	2	1	4	4	2	1	2	4	25
退所者	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	女	0	0	2	1	3	2	3	4	1	2	1	3	22
	計	1	1	2	1	3	2	3	4	1	3	1	4	25
月末人員	男	15	14	14	17	17	17	18	22	23	24	26	30	
	女	65	65	65	63	62	61	61	57	57	55	54	50	
	計	80	79	79	80	79	78	79	79	80	79	80	80	

エ サービス利用状況

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	旧措置1	旧措置2	旧措置3	計
4 月	延	0	125	257	936	815	30	30	0	2193
	実	0	5	10	34	29	1	1	0	80
5 月	延	0	62	337	935	930	31	31	0	2326
	実	0	2	11	33	30	1	1	0	78
6 月	延	0	60	325	971	845	21	30	0	2252

月	実	0	2	12	34	29	1	1	0	79
7	延	0	62	329	974	885	0	31	0	2281
月	実	0	2	11	33	30	0	1	0	77
8	延	0	62	370	1033	868	0	31	0	2364
月	実	0	2	12	35	28	0	1	0	78
9	延	0	60	340	1063	771	0	30	0	2264
月	実	0	2	12	36	28	0	1	0	79
10	延	0	29	352	1024	780	0	31	0	2216
月	実	0	2	12	36	28	0	1	0	79
11	延	0	21	330	969	790	0	30	0	2140
月	実	0	1	11	36	30	0	1	0	79
12	延	0	0	323	1012	828	0	31	0	2194
月	実	0	0	11	36	30	0	1	0	78
1	延	0	0	341	1026	817	0	31	0	2215
月	実	0	0	12	36	29	0	1	0	78
2	延	0	0	348	952	798	0	4	0	2102
月	実	0	0	12	36	28	0	1	0	77
3	延	0	0	349	1089	831	0	0	0	2269
月	実	0	0	13	38	29	0	0	0	80
合	延	0	481	4001	11984	9958	82	310	0	26816
計	実	0	18	139	423	348	1	1	0	942

オ 月間稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	92.6	95.1	94.6	93.6	95.5	96.0	91.9	91.9	91.4	91.4	92.0	93.3	93.3

(2) 介護部門

総括

うららか春陽荘の理念に基づき、ご利用者の個別性を重視するため「当たり前の生活」を念頭に置き日々のケアに取り組んだ。

年度初めに開催した家族会や面会時に、お一人おひとりの生活歴や思い出等をご家族からお聞きし、一部のご利用者ではあるものの畑作りや故郷訪問、お墓参りなどを実施しご利用者の「当たり前の生活」に近づけるよう努力をした。当たり前の生活という考え方に基づき実施した結果、いつもとは違うご利用者とご家族の笑顔を見ることができた。このことが、職員の介護に対するモチベーションにもつながってきたと感じるこ

とが出来た。今後はこの考え方をより多くのご利用者へ、より日常的なケアに反映することが出来るよう努力が必要である。

その他、ご利用者の入院日数が前年度を大きく上まっていることが、課題として残っている。ご利用者の体調不良や疾患については様々な要因があるが、日々のケアや観察などで防ぐことの出来ることも多く残されていると思われるため、今後の取り組みに対しての課題である。加えて、誤薬が下半期の一時期に集中して起こっており、そのほとんどがマニュアル不遵守であった。誤薬は全てが職員側のミスで起こることを再認識し今後の事故を防ぐことにつなげていく。

(各ユニット報告)

しあわせユニット

ご利用者一人ひとりの個別性を重視し、日常的なコミュニケーションも「個別」のものであるよう意識して取り組み、その重要性を再確認することができた。今後はその意識を日々の介護に活かせるよう努力は必要である。

やさしきユニット

ご利用者の心身の負担が少なくなるよう介護が統一できるように、日々の申し送りは当然であるが、グループ会での情報共有や職員からの意見を尊重した結果、積極的な意見交換が出来るようになり、ご利用者それぞれの介護の方法に幅ができ、より良いご利用者への関わりが可能となった。

なごみユニット

ご家族に協力して頂き、ご利用者の私物を多く持ちこんでいただき、自室がご利用者にとって特別なものとなるよう工夫をした。また、季節感を感じてもらうためユニット内の飾りなどを工夫し四季を感じて頂ける雰囲気を作った。

ひかりユニット

一部のご利用者ではあるものの、ご利用者、ご家族から聞き取りをした内容から個別性の高い外出を実施し、普段とは違うご利用者の姿を見ることが出来た。こういった活動をイベントとしてではなく、日常的に行える環境を整える必要がある。

ぬくもりユニット

ご利用者の個別性を一目で理解できるよう 24H シートの作成に取り組み、ユニットご利用者全員分が完成した。ご利用者の日々の生活が個別であり当たり前なものに近づけるよう、24H シートの活用方法を周知していく。また、今後はユニットだけでなくグループでの取り組みとする。

よろこびユニット

気付き能力の向上のため研修への参加を通じて資質向上に努めた。参加した職員の意識は向上したものの、伝達し職員全員で共有するという部分では不足している状況であるため、今後の課題として取り組む必要がある。

たのしみユニット

ご家族の面会時には施設でのご様子を積極的にお伝えし、ご家族からも介護のヒントとなる情報も頂き、日々の介護に活かすことが出来た。

ほほえみユニット

個別性の高い介護を提供するために方法として 24H シート作成に取り組もうとしたが、作成の目的、意義等をユニット全体で共有するのに時間がかかり実現しなかった。ただ、下地は出来たため次年度の取り組みとして実施していく。その中でも、ご利用者の当たり前の生活を意識し、住み慣れた自宅への一時帰宅を実施し、多くのご家族との時間を過ごして頂いたり、日常的に好みのテレビ番組が見られる工夫をしたりと個別ケアに取り組みをおこなった。

(3) 介護支援専門員部門

利用者本位の理念の下、ご利用者、ご家族の思いの寄り添ったマネジメントを心がけた。

- ア 一例ではあるが、入居まで 20 年間利用していた理容室の利用を続けたいというご意向に対し、身体能力の維持や外出に対する支援への介護計画を作成し、入居後も継続して通い入れた理容室への外出を行うといった支援を行っている。
- イ ご利用者、ご家族に不快な思いをさせないような対応を心がけ、苦情となるケースもない一年であった。

(4) 生活相談員部門

- ア ご利用者の個別ニーズに合わせて、「コーラスの参加」「想いで場所への外出」「馴染みの理容室へ通う」等の支援を行い、入居前に大切にされていた生活環境、社会参加等の継続支援を行った。
- イ 南海トラフ地震に向けた防災訓練「災害ワーキング」を地域の方と合同で行い、福祉避難所開設や、施設備蓄品の確認、炊き出し訓練を行うことができた。また秋祭りの開催や美術展開催において地域の方と協同で実施することができた。
- ウ 入居待機者がスムーズに入居できるようご家族や関係機関と定期的に情報共有を行った結果、ベッドが空いてから平均 6 日での入居であった。また、在宅での高齢者の生活を支えるための空床型ショートステイの利用を促進し、年間約 600 日の利用となった。

(5) 健康管理部門

総括

ご利用者の健康管理を総合的に行う部門として、体調変化の早期発見、早期対応ができるよう、他職種との報告・連絡・相談を徹底しご利用者の苦痛を最大限軽減できる

ように努めた。

医務会を毎月開催し情報の共有や多職種との連携により異常の早期発見と対応ができたと思われる。研修会にも積極的に参加し伝達講習など内部研修として開催、感染症も利用者に発症することはなく評価できるものである。

外来受診件数

	内科	脳外	精神	整形	皮膚	眼科	その他	備考	計
4月	10	2	3	8	2	0	1	骨折1名	26
5月	17	1	2	8	1	1	6		36
6月	16	4	4	8	1	0	3		36
7月	13	2	6	4	3	0	3		31
8月	11	3	3	6	2	2	5	救急1名脱水	32
9月	17	1	3	6	5	1	1		34
10月	18	2	2	3	0	0	0		25
11月	29	6	2	4	4	0	0	感冒の流行	45
12月	22	11	0	6	3	1	1	頭部外傷2名 感冒の流行	44
1月	8	7	4	12	1	1	9	骨折による通院	42
2月	18	1	5	6	5	0	2		37
3月	19	2	3	8	3	1	4		40
計	198	42	37	79	30	7	35		428

最も多い内科受診 198 名は発熱を伴った気管支炎（感冒）や尿路感染症、慢性心不全喘息など多岐にわたる。11、12 月には 1 ユニットにて感冒が流行し内科受診の利用者が増加、入院となった利用者も数名出たが、インフルエンザの発症は見られなかった。

次いで整形外科、脳外科、精神科の順となっており、整形外科においては 4 月と 1 月に骨折 1 名ずつ、入院は必要なく外来通院で保存的に治療されており受診件数が多くなった。また、12 月には転倒による頭部外傷の為に脳外科通院数が増加している。

入院利用者数等

	入院者数	退居者数	死亡者数	備考
4月	7	1	0	
5月	9	1	1	高熱、敗血症にて死亡
6月	5	2	1	急性動脈かい離にて死亡
7月	7	1	1	入院療養中死亡

8月	1	0	0	
9月	8	2	0	
10月	13	4	1	慢性硬膜下血腫 OP 後死亡
11月	11	1	1	心不全にて死亡
12月	13	2	0	
1月	8	3	0	
2月	6	1	0	
3月	7	2	0	
計	94	20	5	

入院総数94名、月平均入院数7.8名であり、昨年より12名増加となった。疾患別では肺炎（気管支肺炎・誤嚥性肺炎を含む）が21名（21%）、脳梗塞9名（10%）尿路感染症5名（5%）であった。また、入院から施設退居となった利用者は20名（21%）で、要因としては脳梗塞や高齢化に伴う摂食障害などを併発し医療的な処置を要し退居を余儀なくされた。

肺炎を繰り返すご利用者も多く、今後は嚥下機能の評価と共に食べる口の機能を残すため口腔ケアや訓練を行っていくことで、肺炎や摂食障害による入院数の減少に繋がっていきけるのではないかと考える。しかし、マンパワー不足や知識・技術不足をどう補っていくのが課題となってくる。現在、一ユニットではあるが看護師が口腔ケアの介入に取り組み始めており、他職種と連携を取りながら口腔ケアの質の向上が図れるよう次年度の課題としたい。

(6) 給食部門

ユニット調理ならではの家庭的な雰囲気を大事に食事提供を行った。

ア 提供する温度も直前までスチームコンベクションや冷蔵庫を使用し適温での食事提供を実施した。

イ 食事に楽しみをもってもらうための嗜好調査、献立内容の改善、イベント食の施はできなかった。

ウ 食事形態等の変更については他職種と協力して、随時ご利用者に合った食事が提供できた。

（平均栄養摂取量）

平成28年3月31日現在

利用者 70歳以上 男性 24名 女性 52名

60歳～70歳 女性 2名

	熱量(kcal)	蛋白質(g)	カルシウム(mg)
必要栄養量	1450	50	600
実施栄養量	1450	59.5	510

(7) 事務部門

- ア 施設の窓口として来荘される方が気持ちよく来ていただけるように、事務職員全員で毎朝の清掃を行ったことや、地域の方から定期的にいただく花などを飾ることにより清潔で華やかな玄関づくりが行えた。
- イ 厳しい運営状況を把握し、運営への意識が高まったため、日々の業務に経費削減が標準化された。
- ウ 個々の業務については期限を意識しながら取り組んだが、窓口業務が多く予定通りに進まないことが多々あったものの、各自責任のある業務に取り組むことができた。

(8) 行事・ボランティア一覧

月日	内 容	ボラン ティア	参 加 者					計
			特養	シヨ ート	デイ	職員	家族 等	
4/5	なかよし会	11	25	6	10	6	1	59
4/17	楽団ブルースカイ	12	22	2	18	10	0	64
5/10	特養 全体家族会	施設 実施	0	0	0	20	43	63
5/25	コーラス大篠	20	20	8	24	6	0	78
6/5	秦しのぶ「唄と踊りの夢 一座」	7	20	2	20	6	0	55
6/12	ミュージックラバー	1	25	10	25	10	0	71
7/3	うららか保育園との交流 七夕飾り	30	16	0	4	8	0	58
7/6	流しそうめん	施設 実施	30	5	10	20	10	75
7/24	土用の丑の日	施設 実施	75	10	25	10	0	125
8/7	森進伍ワンマンショー	1	12	0	0	10	0	23
8/19	日曜会	10	20	0	20	6	3	59
8/20	くじれ連よさこい鳴子踊 り	8	80	20	25	10	0	143

9/15	①敬老の日式典 ②野の会コーラス	5	40	0	0	15	20	80
10/7	歌とハーモニカ演奏	2	25	5	10	6	0	48
10/22	筑前琵琶保存会	7	20	2	20	5	0	54
11/25	長い坂の会美術展	62	25	10	25	40	30	182
12/3	コーラス大篠	20	25	5	20	6	0	76
12/15	平和幼稚園お遊戯披露	16	0	0	20	5	0	41
12/16	いきいき百歳体操 お楽しみ会	15	10	0	0	2	0	22
12/16	櫻レオ 歌謡ショー	1	20	10	20	7	0	58
12/25	餅つき	30	20	5	10	15	40	120
12/28	写真展	施設 実施	40	10	20	40	30	140
1/20	つくしの会	10	25	5	20	7	0	67
1/25	RKCラジオ ごきげんキャラバン	5	13	0	15	5	0	38
3/29	どろんこ祭り	30	21	5	10	7	0	73

(9) 定期ボランティア

内容	頻度	参加者数
紙芝居	月2回	10～20名/回
傾聴ボランティア	月2回	5名/回
洋裁・カラオケ	月1～2回	10～20名/回
食事介助	週1回	介助者1名

2 居宅サービス事業部門

(1) 短期入所生活介護 うららか春陽荘（ショートステイ）

ア 個別性を重視した介護を心がけた結果、ご利用者、ご家族から一定の評価を頂き、職員の介護に対する意欲向上にもつながっている。しかし、毎日複数名の入退居があることや新規ご利用者も多く、そういった中での情報共有が今後の課題として残っている。

イ 職員はご利用者の状況を良く観察できており、その情報をもとに会議の開催やご家族、ケアマネージャーとの連携が十分に図れている。アセスメントに関しては十分でないところもあり、情報・確認の不足により介護の根拠が乏しい事例もあったため、今後の課題として残っている。

利用実績（介護給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護 1	延	171	190	135	110	131	112	91	86	107	93	86	86	117.3
	実	23	27	23	19	22	17	20	16	20	17	12	14	19.2
介護 2	延	104	113	159	179	133	131	174	138	127	134	101	154	137.3
	実	16	17	19	24	20	21	22	20	20	22	16	27	20.3
介護 3	延	158	179	149	158	146	183	165	123	101	100	147	136	145.4
	実	20	23	21	21	20	23	22	22	15	17	18	19	20.1
介護 4	延	80	90	66	75	120	132	109	145	161	185	155	144	121.8
	実	13	13	13	11	17	17	14	15	19	23	16	18	15.8
介護 5	延	30	16	46	35	39	19	31	40	39	38	45	65	36.9
	実	6	2	5	6	5	2	3	5	6	6	7	7	5
一日 平均		18.1	19	18.5	18	18.4	19.2	18.4	17.7	17.3	17.7	18.4	18.9	18.3

利用実績（予防給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支援 1	延	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4	2	1	1.3
	実	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	1	1	0.7
支援 2	延	0	0	0	0	4	2	0	0	4	6	0	2	1.5
	実	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1	0.5

月間稼働率（%）（介護給付＋予防給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	90.5	94.8	92.2	90.6	92.4	92.2	92.4	90	88.2	90.3	92.4	91.8	91.8

(2) デイサービスセンターはるかぜ

- ア ご利用者の生活歴や趣味等を調査した上で、集団での活動の他に個別での活動が行えるようプログラムの作成、実施を行った。
- イ 個別での活動を重視し脳トレ、生け花、書道、園芸等の複数の活動が出来る環境を作り、ご利用者に選んでもらい活動を行った結果、ご利用者の楽しみや生活に対する意欲向上につながったと感じている。
- ウ 在宅部門の勉強会を定期的で開催し、介護職として必要な技術、知識を身に付け資質向上につながった。しかし、都合により参加できなかった職員に対してのフォローが十分ではなく、バラつきが出たことが課題として残っている。

利用実績（介護給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護 1	延	188	216	196	181	212	194	212	212	191	169	170	213	196.2
	実	19	20	18	17	20	22	19	19	20	18	19	22	19.4
介護 2	延	165	173	189	197	149	166	158	160	182	189	180	216	177
	実	17	16	17	17	16	13	15	18	16	18	17	19	16.6
介護 3	延	164	197	183	199	202	228	201	209	222	205	194	222	202.2
	実	14	15	16	16	15	16	17	19	20	20	19	19	17.2
介護 4	延	87	100	80	87	71	66	71	92	88	78	90	111	85.1
	実	10	11	10	7	7	6	7	6	8	6	7	10	7.9
介護 5	延	42	45	43	29	30	36	35	35	32	34	25	31	34.8
	実	5	5	4	4	3	4	5	5	4	4	3	4	4.2
一日平均		21.5	23.6	23	22.4	21.4	23	21.8	23.6	23.1	21.8	22.7	25.6	22.81

利用実績（予防給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支援 1	延	16	17	20	21	16	13	15	13	23	22	23	19	18.2
	実	3	3	3	4	3	3	3	3	4	4	4	3	3.3

支援 2	延	0	0	0	0	0	6	16	16	17	16	13	17	8.4
	実	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2	2	1.1
一日 平均		0.6	0.6	0.8	0.8	0.6	0.8	1.2	1.1	1.5	1.4	1.4	1.3	1

月間稼働率 (%) (介護+予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	73.6	80.4	79.7	76.5	73.1	78.2	76.2	82.4	81.2	76.5	79.9	89.1	78.9

(3) デイサービスセンターそよかぜ

- ア ご利用者やご家族から「生活歴」や「思い」等の情報収集を行い、ご利用者それぞれの活動プログラム等を作成し、集団ケアにならないよう個別での活動を提供した。
- イ 在宅部門の定期的な勉強会に加えて、事業所独自の「認知症ケア」に特化した勉強会も開催し、認知症ケアの資質向上に努めた。また、県の主催する認知症実践者研修への参加により、認知症ケアの資格取得も実践した。

利用実績 (介護給付)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護 1	延	70	72	47	60	56	48	52	24	26	24	26	32	44.8
	実	6	6	7	7	6	5	5	3	3	3	3	3	4.8
介護 2	延	54	54	57	39	43	24	62	59	44	54	56	45	49.3
	実	4	4	3	3	3	3	4	6	4	5	5	4	4
介護 3	延	107	107	91	93	89	58	61	60	98	83	82	108	86.4
	実	7	8	8	6	6	4	4	5	7	6	7	8	6.3
介護 4	延	54	41	34	34	31	28	19	35	16	10	22	26	29.2
	実	3	3	2	2	3	2	2	2	2	1	2	2	2.2
介護 5	延	2	4	20	0	3	19	22	20	23	25	20	22	15
	実	1	1	1	0	1	2	3	3	3	3	3	2	1.9
一日 平均		9.6	9	8.3	7.3	7.2	5.9	7	6.6	6.7	6.3	7.1	7.5	7.4

月間稼働率 (%) (介護+予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	80	75	69.2	60.8	59.7	49.2	58.1	55	55.6	52.7	59.2	62.6	61.4

在宅部門勉強会実施一覧

実施月	テーマ	参加者数
5月	介護保険制度	21名
7月	身体拘束・虐待	11名
9月	認知症	15名
12月	感染症予防	23名
1月	リスクマネジメント	14名
3月	接遇	9名

3 居宅介護支援事業所はるの

総括

在宅生活をマネジメントする役割としての資質向上の為、事業所内での各種制度や事例検討会、業務改善等を行い自立支援の理念に基づいたケアプランを作成した。

ア ご利用者の自立が促進すれば、ご家族の負担も減少出来るという考えの下、日々状況確認等を行いながら、適切なケアプランの作成に努めた。また、介護保険制度だけでは支えきれない場合について、民間サービスや有償ボランティア等のサービス調整も積極的に行い在宅生活を支えるプランを作成した。

イ 居宅介護支援事業所協議会主催のブロック会や高知市主催の研修や勉強会等に積極的に複数の職員で参加し、ケアマネージャーとしての資質向上に努めた。

給付管理数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護	128	131	130	119	125	130	124	123	121	120	121	126	124.8
予防	29	23	25	25	25	24	28	29	26	27	27	25	26.1
計	157	154	155	144	150	154	152	152	147	147	148	151	150.9

4 高齢者住宅等安心確保事業 (横浜ニュータウン)

総括

日常的な安否確認等を通じて 30 世帯の日常生活に安心が提供できるよう活動を行った。緊急での対応は延べ 10 件、救急での対応は内 4 件であったが早期の対応により大事に

至ったケースは無かった。しかし、その他4件に関しては通報装置の誤作動によるものであり、装置の信頼性に疑問の残る一年であった。

基本活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活指導・相談	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
安否確認	395	420	464	408	427	369	386	359	358	355	375	386	4702
一時的な家事援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急時の対応	1	1	1	0	2	1	1	0	1	1	1	0	10
関係機関との連絡	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	6
その他のサービス	66	55	59	57	40	49	73	60	47	45	33	51	635

その他活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
百歳体操	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4	3	5	49
カラオケ	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	21
書道	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
絵手紙	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	14

5 うららかキッズガーデン（事業所内小規模保育施設）

総括

高知市による「子ども・子育て支援新制度」の開始に伴い、事業所内保育所として平成27年7月より認可を受け「小規模保育所A型」（認可保育所）として運営することとなった。定員11名に対して、6月まで一時預かりを利用していただいていた児童3名（職員2、地域1）と、7月復職の職員の児童1名の計4名からのスタートとなった。

定員に対して児童数に余裕がある月は、一時預かり（余裕活用型）を実施したが、11月からは入所児童の増加によって保育士が不足する日があり、一時預かりの実施が厳しくなった。

ア 小規模という特性を活かし家庭的な雰囲気のもと、一人ひとりの発達に応じたきめ

細かな保育を行った。

- イ 施設ご利用者との交流については、計画的ではなかったが、適宜ユニットを訪問してご利用者とコミュニケーションを図る等の活動を実施した。
- ウ 法人事業所であるうららか保育園の発表会に初めて参加し、大勢の前で発表する取り組みを実施した。
- エ 換気、消毒等の感染症対策を徹底し、インフルエンザ発症者は児童、保育士とも0名であった。

利用状況

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
職員	0歳	1	2	2	2	3	3	3	3	3	2.4
	1歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2歳	2	2	2	3	4	4	4	4	4	3.2
一般	0歳	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
	1歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		4	6	6	7	9	9	9	9	9	7.6

一時預かり（余裕活用型）状況

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
一時預かり	48	40	37	23	0	1	1	0	0	16.7

6 春陽荘各種委員会報告

(1) 事故防衛パトロール隊

介護事故を未然に防ぐために、リスクマネジメント研修に参加し、気付く力の重要性和要因分析の方法について伝達講習を行った。結果、それまでよりヒヤリハット報告が増えてきており、事故を防ぐ一つの手段として定着しつつある。

(2) ケア向上委員会

認知症ケアについての知識、技術の向上を中心とした内容を、各グループ会等で委員会発信を行った。今年度の不適切ケア、虐待、身体拘束ともに0件であり、一定の効果はあったと思われる。この0件を継続するために、今後も同様に取り組んでいく必要がある。

(3) 感染予防対策委員会

感染症流行期にはマスク着用や手指消毒、うがい、換気等を徹底し、ノロウイルスやインフルエンザといった感染症に関して、一部の職員には発症したものの、ご利

用者の発症例はなく、予防対策の効果が出たものと考えられる。一方、予防対策マニュアルの更新が間に合っていないことが次年度への持ち越しの課題である。

(4) 褥瘡バスターズ委員会

施設内での褥瘡発生者数は年間3名であり、前年度より1名増加している。褥瘡にならないように、表皮剥離や発赤の時点での早期対応が必要であるが、ユニット内での観察方法等にバラつきも確認できたため、統一したケアが行えるようにすることが急務であり、次年度への課題となっている。

(5) 安全衛生委員会

12月より制度化されたストレスチェックに対しての理解を深めるとともに、施設内各事業所での課題を確認しながら活動を行った。今年度は心身の不調などに対する課題は特になかったが、表面化していない可能性も考えながら次年度も活動を行う。

(6) 美化委員会

委員による巡回チェックを行った結果、ユニット内は概ね清潔な環境が保たれており、委員会の目的は一定達成されたと考えられる。今後は巡回チェックにとらわれない美化の方法等を検討しながら活動を継続する。

(7) 研修委員会

施設内研修実施一覧

実施月日	内容
4/1	27年度事業計画・各種規定変更
5/1	各種委員会総会
7/14	緊急時対応
7/31	事故パトロール隊研修
8/18	救急法
10/15	各種委員会総会
10/20	ノーリフティング研修
10/30	各種委員会報告会
11/17	ノーリフティング研修
11/18・27	感染予防研修
3/30	ケア向上委員会研修
3/31	ノーリフティング研修

(8) 災害対策委員会

法人の危機管理委員会との連携を図り、施設内の災害対策を構築してきた。中でも初めて取り組んだ「災害ワーキング」「机上訓練」では多くの職員の災害対策についての意識向上につながったと思われる。

7 研修参加状況

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	1	春陽荘	内部研修	事業計画職員研修	うららか春陽荘	63
	17	高知市	平成 27 年度 高知県老人福祉施設協議会総会	役員等の報告について他	高知県老人福祉施設協議会	1
	20	高知市	介護職員中央Bブロック勉強会	人材育成について	高知県老人福祉施設協議会	1
	25	高知市	介護福祉士会 第 1 回研修会『介護福祉士と認知症そして認知症ケア』	介護福祉士に求められる認知症ケア	高知県介護福祉士会	1
5	1	春陽荘	内部研修	各種委員会総会	うららか春陽荘	26
	15	高知市	中央Bブロック栄養士勉強会	褥瘡と栄養他	高知県老人福祉施設協議会	1
	20	春陽荘	内部研修（チーフ、リーダー研修）	部下、後輩に意図的・計画的指導をするため	社会福祉法人長い坂の会	12
6	5	高知市	高知県食と栄養の会 平成 27 年度総会・研修会	薬と食事の関係 食欲不振・便秘・食品との相互作用	高知県食と栄養の会	1
	7	高知市	褥瘡ケア 基礎研修	褥瘡発生のメカニズムと治療の今	高知県社会福祉協議会	6
	11	平成福祉	内部研修	新人研修会	(社) 長い坂の会	13
	25	平成福祉	内部研修	新人研修会	(社) 長い坂の会	2
	25	四万十市	認知症はじめの一步研修会	認知症基礎知識～医療から見た認知症	高知県社会福祉協議会	2
7	2	春陽荘	内部研修	感染症研修	(社) 長い坂の会	38
	6～8	岡山市	ユニットケア研修	講義研修	高知県高齢者福祉課	1
	8	平成福祉	内部研修	接遇研修会	(社) 長い坂の会	54
	9	日高村	介護職員中央Bブロック勉強会	人材育成について	高知県老人福祉施設協議会	1
	7～11 7/13 ～ 8/9・	高知市	高知県認知症介護実践者研修『実践者研修』	認知症高齢者の内面理解ができ、介護の実践力を習得する	高知県高齢者福祉課	1

	8/24					
	14	春陽荘	内部研修	救急法について	うららか春陽荘	12
	15	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修 I	尊厳を守るとはどのようなことか？	高知県社会福祉協議会	2
	19	高知市	平成 27 年度高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業指導者講習	喀痰吸引等研修指導者研修	高知県高齢者福祉課	1
7	27～31	岡山市	ユニットケア研修	実習研修（きやま）	高知県高齢者福祉課	1
	27	高知市	介護保険施設等集団指導	実施指導結果等からみた運営上の留意点について	高知市指導監査課	5
	29～30	高知市	福祉職場の中堅職員ファーストステップ研修	中堅職員の立場と役割	高知県社会福祉協議会	2
	29～30	高知市	褥瘡ケア アドバンス研修会	～利用者の体を守り、質の高い生活を～	高知県社会福祉協議会	6
	28～29	高松市	四国老人福祉施設関係者研究大会	地域を支え、地域と歩む社会福祉法人	高知県老人福祉施設協議会	2
	29	平成福祉	内部研修	接遇研修会	(社) 長い坂の会	42
	31	春陽荘	内部研修	リスクマネジメントについて	うららか春陽荘	22
8	12	平成福祉	内部研修	セクハラ、パワハラ研修会	(社) 長い坂の会	47
	14～16	高知市	介護支援専門員更新研修	介護支援専門員の課題他	高知県社会福祉協議会	1
	18	春陽荘	内部研修	救急法（AED取扱い）	うららか春陽荘	16
	21	日高村	中央Bブロック栄養士勉強会	視閲見学・勉強会	高知県老人福祉施設協議会	1
	21	平成福祉	内部研修	セクハラ、パワハラ研修会	(社) 長い坂の会	38
	28	日高村	21世紀委員会東・中央A・中央B合同ブロック会	コスモスの里施設見学意見交換会（介護報酬改定等）	高知県老人福祉施設協議会	2
	29	高知市	サマーカレッジ2015	他職種連携について	社会福祉法人 秋桜会	4
	30	春陽荘	内部研修	災害ワーキング	うららか春陽荘	67
9	3	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修 I	尊厳を守るとはどのようなことか？	高知県社会福祉協議会	7
	3	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修 I	人として尊厳ある当たり	高知県社会福祉協議会	9

			ク研修Ⅱ	前の生活を送るために専門職として考えるべきこと		
3	高知市	社会福祉法人の地域貢献のあり方研修会	社会福祉法人の地域貢献について	高知県老人福祉施設協議会	4	
4	日高村	第2回中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	介護報酬改定後の各施設の取組、進捗状況について	高知県老人福祉施設協議会	2	
9～10	高知市	指導職員研修	チームリーダーとしての役割とマインドを学ぶ	高知県社会福祉協議会	2	
10	春陽荘	内部研修	新人研修会（採用1年未満職員対象）	（社）長い坂の会	4	
11	高知市	高知県老人福祉施設協議会理事会及び意見交換会	平成27年度の事業進捗状況について	高知県老人福祉施設協議会	1	
16	平成福祉	内部研修	課長、管理者、主任等研修会	（社）長い坂の会	11	
17～18	滋賀県	全国社会福祉法人経営者大会	社会福祉法人制度への対応と経営者の取組	全国社会福祉法人経営者協議会	1	
24	高知市	福祉職場の中堅職員ステップアップ研修	中堅職員としての役割行動と実践能力を身につける	高知県社会福祉協議会	5	
9	24	高知市	福祉職場の中堅職員ステップアップ研修	中堅職員としての役割行動と実践能力を身につける	高知県社会福祉協議会	5
	24	高知市	管理者向け職場での腰痛予防基本研修会	管理者として知っておくべき腰痛予防の取組とは	高知県地域福祉部	4
	28	高知市	福祉サービス苦情解決セミナー	福祉サービスの見直しや質の向上を図る	高知県社会福祉協議会	1
10	4	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修ⅠⅡ	人として尊厳ある当たり前の生活を送るために専門職として考えるべきこと	高知県社会福祉協議会	1
	14～15	四万十市	高知県老人福祉施設協議会事務職員研修会	マイナンバー制度について	高知県老人福祉施設協議会	1
	20	春陽荘	内部研修	ノーリフティング研修	うららか春陽荘	19
	23	高知市	中間管理職研修会	中間管理職の役割とは	高知県老人福祉施設協議会	1

				～これから求められるリーダーについて	議会	
	24	高知市	介護福祉士が知っておくべき身体の仕組みと機能について	口腔機能と摂食・嚥下について	高知県介護福祉士会	3
	28	高知市	高知県老人福祉施設協議会理事会	平成 29 年度全国老人福祉施設研究会高知での開催について	高知県老人福祉施設協議会	1
	29	新居浜市	給食委託事業所施設見学	事業所での試食会	(社) 長い坂の会	3
11	2	大坂	看護師・精神保健福祉士のためのストレスチェック実施者養成研修	労働安全衛生法改正に対応した講義	(株) ウエルネット	1
	3	高知市	摂食嚥下を知る学習会 2015	ガン、脳卒中、認知症、肺炎など、歯科からのサポート	高知保険医協会	4
	4～5	高知市	介護福祉士実習指導者講習会	介護過程の理論と指導方法	高知県介護福祉士会	2
	9	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅱ	人として尊厳ある当たり前の生活を送るために専門職として考えるべきこと	高知県社会福祉協議会	1
	10	平成福祉	内部研修	チーフ、リーダー研修	(社) 長い坂の会	12
	13	土佐市	中央Bブロック栄養士勉強会	施設見学、経口維持加算について	高知県食と栄養の会	2
	17	春陽荘	内部研修	ノーリフティング研修	うららか春陽荘	16
	18	春陽荘	内部研修	感染対策研修	うららか春陽荘	36
	20	春陽荘	第3回介護職員中央Bブロック勉強会	モチベーションアップと職員指導	高知県老人福祉施設協議会	1
	25	平成福祉	内部研修 (接遇研修)	心通うコミュニケーションを目指して	(社) 長い坂の会	11
27	春陽荘	内部研修	感染予防研修	うららか春陽荘	26	
12	2～3	高知市	介護福祉士実習指導者講習会	スーパービジョンの意義と活用及び学生理解	高知県介護福祉士会	3
	4	津野町	中央Bブロック生活相談	B C P の取組・福祉避難所	高知県老人福祉施設連	1

			員・介護支援専門員合同勉強会	の受入について	絡協議会	
	9～10	松山市	四国ブロックカンントリーミーティング	介護は進む、日本を変える	高知県老人福祉施設協議会	1
	14	高知市	福祉職場の労務管理者研修	労働関係法令の基本的理解	高知県社会福祉協議会	1
	21～22	高知市	認知症対応型サービス事業管理者研修	地域密着型サービスの意義 開設者・管理者の役割	高知県高齢者福祉課	1
1	13	高知市	平成27年度高知県老人福祉施設協議会施設長研修会	社会福祉法人改革の今後の動向・対応について	高知県老人福祉施設協議会	1
	13	平成福祉	内部研修	チーフ、リーダー研修	(社)長い坂の会	8
	15	高知市	介護職員中央Bブロック勉強会	平成27年度活動の振り返りと次年度の取組	高知県老人福祉施設協議会	1
	27	春陽荘	内部研修	新人研修(1年未満)	(社)長い坂の会	4
2	5～6	京都市	おむつフィッター2級研修	排尿障害の理解を深める	(株)はいせつ総合研究所	2
	5	高知市	高知県老人福祉施設協議会21世紀委員会総会・高知県カンントリーミーティング	介護現場におけるリスクマネジメント	高知県老人福祉施設協議会	4
	17	高知市	社会福祉施設総合保険制度説明会	平成28年度の社会福祉施設総合保険制度について	高知県社会福祉法人経営者協議会	2
	19	高知市	中央Bブロック栄養士勉強会	県指導監査について	高知県老人福祉施設協議会	1
	24	平成福祉	内部研修	ストレスチェック制度研修会	(社)長い坂の会	60
	25	高知市	平成27年度高齢者虐待防止研修	虐待を起こさない組織作りと管理者の役割	高知県社会福祉協議会	1
3	1	平成福祉	内部研修	ストレスチェック制度研修会	(社)長い坂の会	36
	2	高知市	栄養士研修会	経口維持加算にむけた取組	高知県老人福祉施設協議会	1
	10	高知市	介護支援専門員・生活相談員研修会	これからの社会福祉施設に求められる地域貢献のあり方	高知県老人福祉施設協議会	3
3	18	春陽荘	内部研修	防災研修(災害時机上訓)	うららか春陽荘	65

				練)		
	19	西分公民館	西分地区自主防災ネットワーク役員会	平成 28 年度総会	西分地区自主防災ネットワーク	1
	25	平成福祉	内部研修	法人リーダー、チーフ研修	(社) 長い坂の会	7
	30	春陽荘	内部研修	虐待について	ケア向上委員会	24

(2) デイサービスセンターはるかぜ

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加人数
6	10～11	高知市	福祉職場の信任職員研修会	福祉サービスの基本理念と福祉職員の心構え	高知県社会福祉協議会	1
	25	四万十市	認知症はじめの一步研修会	認知症基礎知識～医療から見た認知症	高知県社会福祉協議会	1
7	28～29	高松市	四国老人福祉施設関係者研究大会	地域を支え、地域と歩む社会福祉法人	高知県老人福祉施設協議会	1
	27	高知市	介護保険施設等集団指導	実施指導結果等からみた運営上の留意点について	高知市指導監査課	1
9	3	高知市	社会福祉法人の地域貢献のあり方研修会	社会福祉法人の地域貢献について	高知県老人福祉施設協議会	1
	7～8	高知市	認知症対応型サービス事業管理者研修	地域密着型サービスの意義 開設者・管理者の役割	高知県高齢者福祉課	1
	9～10	高知市	指導職員研修	チームリーダーとしての役割とマインドを学ぶ	高知県社会福祉協議会	1
	24	高知市	福祉職場の中堅職員ステップアップ研修	中堅職員としての役割行動と実践能力を身につける	高知県社会福祉協議会	1
10	23	高知市	中間管理職研修会	中間管理職の役割とは～これから求められるリーダーについて	高知県老人福祉施設協議会	1
11	9	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅰ	尊厳を守るとはどういうことか？	高知県社会福祉協議会	1
	9	高知市	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅱ	人として尊厳ある当たり前の生活を送るために専門職として考えるべきこと	高知県社会福祉協議会	1
	28	高知市	完成版稼働率アップセミナー	正しい営業活動のノウハウや取組姿勢	全国デイサービス事例研究所	2

					関西元気ネットワーク	
--	--	--	--	--	------------	--

(3) デイサービスセンターそよかぜ

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
6	10～11	高知市	福祉職場の信任職員研修会	福祉サービスの基本理念と福祉職員の心構え	高知県社会福祉協議会	1
	25	四万十市	認知症はじめの一步研修会	認知症基礎知識～医療から見た認知症	高知県社会福祉協議会	1
7	7～11 7/13～ 8/9・ 8/24	高知市	高知県認知症介護実践者研修『実践者研修』	認知症高齢者の内面理解ができ、介護の実践力を習得する	高知県高齢者福祉課	1
11	28	高知市	完成版稼働率アップセミナー	正しい営業活動のノウハウや取組姿勢	全国デイサービス事例研究所 関西元気ネットワーク	1
2	17	高知市	認知症ケア研修	認知症に関する知識（症状や治療）とケア方法について	高知市高齢者支援課	1

(4) 居宅介護支援事業所はるの

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	30	高知市	HUG研修会	HUG研修会	近森リハビリテーション病院	2
5	18	高知市	HUG研修会	HUG研修会	近森リハビリテーション病院	1
	23	高知市	高知市居宅介護支援事業所協議会総会	新規加入事業所及び廃止事業所紹介	高知市居宅介護支援事業者連絡協議会	1
	30	高知市	第13回定期総会特別講演会	介護保険制度と地域包括ケア	高知県介護支援専門員連絡協議会	3
6	10～11	高知市	福祉職場の信任職員研修会	福祉サービスの基本理念と福祉職員の心構え	高知県社会福祉協議会	1
	19	高知市	春野地域居宅介護支援事業所・支援センター勉強会	介護用品の基礎知識及び基礎技術	春野地域高齢者支援センター	3
7	26	高知市	西部地域医療カンファレンス	居宅研修会	西部地域居宅協議会	1

			ス			
	10	高知市	南部地域ケアカンファレンス 実行委員会	第2回実行委員会	高知市医師会事務局	1
	24	高知市	南部地域ケアカンファレンス	第15回カンファレンス	高知市医師会事務局	4
9	21	高知市	難病相談研修会	在宅療養に必要な医学的助言	高知市保健所	2
	31	高知市	高齢者虐待予防研修会	高齢者虐待の捉え方と対応	高知市高齢者支援課	1
	4	高知市	脳と神経の勉強会	パーキンソン病の薬物療法 最近の考え方	いずみの病院	3
	6	高知市	多職種による見える事例検討会	援助技術の高めるためのノウハウ	高知市高齢者支援課	1
	6	高知市	介護支援専門員実務研修 ファシリテーター養成研修	ファシリテーターの養成と 技術向上	高知県社会福祉協議会	1
	9	高知市	認知症ケア研修会	認知症の治療・ケアについて	高知市居宅介護支援事業所協議会	5
	15	土佐市	土佐市民地域医療講演会	認知症疾患医療センターと かかりつけ医との連携について	土佐市民病院	3
	25	高知市	西部地域医療カンファレンス 開催	地域包括ケア病棟導入後1 年の経過報告	西部地域医療カンファ レンス実行委員会	5
	30	高知市	認知症ケア研修会	認知症の治療・ケアについて	高知市居宅介護支援事業所協議会	5
10	2～5	高知市	介護支援専門員実務従事者 基礎研修	ケアマネジメントのプロセス とその基本的な考え方	高知県社会福祉協議会	2
	10	高知市	高知県介護支援専門員連絡 協議会	アセスメントの取り方 基本編	高知県介護支援専門員 連絡協議会	2
10	19	高知市	南部地域ケアカンファレンス 実行委員会	第4回実行委員会	高知市医師会事務局	1
11	20	高知市	南部地域ケアカンファレンス	高知市の障害のある人の現 状と施策について	南部地域ケアカンファ レンス実行委員会	3
	28～29	高知市	見える事例検討会	ファシリテーター養成講座	高知市高齢者支援課	1
12	13	高知市	平成27年度居宅ケアマネ基 礎研修会	ケアマネジメントの基礎	高知市居宅介護支援事業所協議会 東部ブロック	2

1	15	高知市	1月定例理事会	見える事例検討会	高知市居宅支援事業所協議会	1
	16	高知市	研修会	地域包括ケアシステム	高知市居宅支援事業所協議会	4
	18	高知市	南部カンファレンス実行委員会	第6回実行委員会	高知市医師会事務局	2
	22	高知市	難病学習会	神経難病の患者さんについての事例検討会	高知市保健所健康増進課	4
	29	高知市	西部地域医療カンファレンス	地域医療連携室における癌患者・家族への支援	西部地域医療カンファレンス実行委員会	1
2	10	高知市	多職種多機関事例検討会	見える事例検討会	高知市居宅介護支援事業所協議会	5
	15	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	3/25 カンファレンス打合せ	高知市医師会事務局	2
	17	高知市	認知症ケア研修	認知症の病態や治療、ケア方法について	高知市高齢者支援課	1
3	25	高知市	南部地域ケアカンファレンス	地域でささえる困難事例について	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	4

(5) うららかキッズガーデン

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	9	高知市	高知市乳児保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育課	1
5	21	高知市	アレルギー対応研修会	症例をもとにしたエピソードの実技・演習	高知市保育幼稚園課	1
7	10	高知市	高知市乳児（1歳未満児）保育研修会	予防接種についての正しい理解及び集団保育における感染予防	高知市保育幼稚園課	1
2	18	高知市	平成27年度南海トラフ地震対策研修会	地震対策研修会	高知市保育幼稚園課	1

(6) シルバーハウジング

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
9	30	高知市	しゃきしゃき百歳体操説明会	しゃきしゃき百歳体操の目的と効果	高知市高齢者支援課	1

8 実習・研修受け入れ

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
4	20～24	ニチイ学館（高知県公共職業訓練実習生）	介護職員初任者研修	1
5	14～15	平成福祉専門学校（1年生）	新型特別養護老人ホームの設備、環境の見学	48
	19	平成福祉専門学校	職員職場研修	1
6	1～5	ニチイ学館（高知県公共職業訓練実習生）	介護職員初任者研修	1
	2	平成福祉専門学校主催 高知県下高等学校教職員（進路担当）	施設見学	10
	6/15～7/18	平成福祉専門学校（第2学年）	介護福祉実習 第3段階	5
	16	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	23	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	30	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
7	2	高知北高校（平成福祉専門学校主催）	施設見学	25
	7	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	14	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	5
	21	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	28	高知県教育委員会	教員企業見学会	20
	28	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
8	4～12	高知県立春野高等学校	インターンシップ（職場体験学習）	2
	8/10～9/2	高知県立大学	介護実習Ⅱ（介護福祉士資格に対応した単位実習）	4
	18	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	19	特別養護老人ホームさくら	ショートステイ施設見学	2
9	1	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	10、11、14	日本福祉アカデミー	介護福祉士実務者研修	1
	15～17	日本福祉アカデミー	介護福祉士実務者研修	1
	29	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
10	5～9	ニチイ学館 高知校	介護職員初任者研修	2
	13～24	平成福祉専門学校（第1学年）	介護福祉実習（第1段階）	3
10	19	平成福祉専門学校（自己推薦入試希望者）	施設見学	1
	20	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	26～30	介護労働講習	（公財）介護労働安定センター	6

	26・27・30	特別養護老人ホーム さくら	施設見学	3
11	4～6	高知市立春野中学校	職場体験学習	2
	10	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	11	平成福祉専門学校（高知商業高校）	施設体験学習	35
	13	高知県立大学	体験学習	30
	19	平成福祉専門学校（高知商業高校）	施設体験学習	35
	24	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
12	11/30～ 12/11	特別養護老人ホームさわらび	ユニットケア研修	2
	1	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	15	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	5
1	11～22	特別養護老人ホームさわらび	ユニットケア研修	3
	12	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	6
	1/18～ 2/6	平成福祉専門学校（第1学年）	介護福祉実習（第2段階）	2
	19	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	5
2	1～5	ニチイ学館 高知校	介護職員初任者研修	1
	9	高知県立須崎高等学校	職場訪問（進路を知ろう事業）	21
	2/12～3/20	平成福祉専門学校（第2学年）	介護福祉実習（第3段階）	3
	2/29～3/7	特別養護老人ホームさわらび	ユニットケア研修	3
3	1	高知大学医学部	地域医療実習・プライマリケア	5

(2) デイサービスセンターはるかぜ

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
5	22	平成福祉専門学校	職員職場研修	1
2	16	平成福祉専門学校（高知県立城山高校）	職場見学	13

〔3〕在宅介護センターわかくさ関連事業

総括

開設から8年目在宅介護センターわかくさにとって厳しい年となった。在宅支援センターあさくら、デイサービスにおいては稼働率もあがり向上した年であったが、小規模多機能においては利用者数増であるが介護報酬改定による報酬減等によって厳しい結果となった。又訪問入浴、ヘルパーステーション、配食事業においては人材不足、利用

者減により赤字計上となり27年度をもってヘルパーステーション、配食事業を廃止とした。益々28年度も厳しくなると思われるが職員一丸となり一層の努力をする。

地域活動においては、高知市西部地域高齢者支援センターあさくら出張所を中心として、お茶屋の活動やいきいき百歳体操の普及、地域ミニデイ、地域老人クラブ支援、宅老所の外出活動等に積極的に支援できたと考える。

又、センター全体の取り組みとして隣接する朝倉第二小学校4年生、若葉保育園園児との交流、町内会行事への参加、最終金曜日に地域の方々に参加していただく居酒屋を開催、小学校通学時の交通整理等通じて今年は台風の為恒例の納涼祭は中止としたが、地域との交流につとめた。

南海地震、防災対策訓練年2回（9月、3月）消防署の指導をいただき地域の方々も少人数ではあったが参加していただき実施。今後は早期に地域との合同訓練に取り組む。

1 デイサービスセンター くつろぎの家

(1) 事業総括

介護サービス計画書に基づいた個々の目標を把握し、利用者の「やる気」を支援する活動としての、貼り絵、生け花、折り紙、塗り絵、編み物、将棋、花札、園芸等、利用者の趣味を生かしたサークル活動、漢字、計算等、選択しやすいものを多く取り入れたプリント学習等も継続して取り組むことができた。身体機能の維持・向上につながる支援も一部の利用者ではあるが実施出来た。そして、集団でのレクリエーションや体操、昼食バイキングに参加して頂くことで、他者との交流や楽しみながらの心身の活性化を図ることができた。

利用者の身体機能維持や意欲向上に向けての取り組み等は十分な成果があった。利用者への安全・安心のサービス提供を目標とした月1回の勉強会は実施し出来なかった。職員の介護ミスや見守り不足等による事故が発生し、原因究明と再発防止の検討を行う事となった。今後は、職員の介護技術・危険予測・専門的知識等高め、資質向上に向けての勉強会等に取り組んで行く。

(2) 行事等

4月	バイキング・各種サークル活動
5月	母の日（おやつクッキング）・バイキング・各種サークル活動・朝倉第二小学校交流
6月	父の日（おやつクッキング）・バイキング・各種サークル活動
7月	バイキング・各種サークル活動
8月	よさこい鳴子踊り子来園・バイキング・各種サークル活動
9月	敬老会・バイキング・各種サークル活動
10月	バイキング・各種サークル活動
11月	バイキング・各種サークル活動

12月	年忘れ会・バイキング・各種サークル活動
1月	バイキング・各種サークル活動
2月	節分・バイキング・各種サークル活動
3月	バイキング・各種サークル活動

(3) 要介護延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	143	146	180	207	196	224	244	233	215	198	211	257	2454
要介護2	116	129	136	140	143	154	152	161	200	155	144	108	1621
要介護3	230	251	228	213	217	196	234	200	201	196	199	194	1004
要介護4	59	43	52	47	59	55	34	31	42	58	58	59	1153
要介護5	52	54	66	80	74	85	92	88	78	70	72	79	1088
合計	600	623	662	687	689	714	756	713	736	677	684	697	7424
1日平均	20.0	20.1	22.1	22.2	22.2	23.8	24.4	23.8	23.7	21.8	23.6	22.5	22.51
平均介護度	2.60	2.57	2.53	2.49	2.52	2.47	2.44	2.41	2.41	2.48	2.47	2.42	2.48

(4) 介護予防延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	26	30	31	37	26	24	26	24	21	24	24	19	277
要支援2	48	46	41	51	52	47	48	45	47	39	32	34	386
合計	74	76	72	88	78	71	74	69	68	63	56	53	663
1日平均	2.50	2.5	2.4	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	2.0	1.9	1.7	2.3

2 デイサービスセンターわかくさの家

<介護面>

本年度も、「人」と「人」との関わりを基本に置き、利用者・家族とのコミュニケーションを図る事が出来た。

家族や関係者との情報交換は細かく行い、知り得た情報を共有・考察し、ケアに繋げる事が出来ていたと思うが、考える力はあるが想像する力に欠けており、利用者の世界観に寄り添い共感しきれていなかった事が今後の課題である。

利用者の気分転換や機能訓練、季節の感覚を持って頂く事を考慮した行事を計画する

事に、少しずつではあるが意識が出来始めており、家庭的な雰囲気を大切にしながら職員と一緒に楽しむ事ができている為、今後も継続していきたい。

本年度は、外部研修へ本人の希望で参加し、処遇部会にて自分の感じた事や思いと一緒に報告する場面もあった。知識を吸収し、またそれを小さな部署ではあるが発表した事に対し、喜びを感じている様子も見受けられ、今後は全職員がこういった思いを持って向上していける様に努めたい。

<運営面>

年度後半に利用者数が減少してしまった。ショートステイを利用し始めた方が増えた事や入院・入所といった理由が主ではあるが、迎え時の精神状態によって休みになる事も多々ある。

来年度は、利用者の心身のレベルダウンが入院や入所に繋がるという事を意識し、健康管理の強化、出来ている事を継続していく支援を目標に努めたい。

また、利用者の精神状態の変動に合わせ、再度の迎えや休まれた分の振り替え利用が出来る体制を作り、現利用者数の確保に努める。

ホームページの更新が細目に出来ていなかった為、その事も含め、ケアマネージャーや家族に「わかくさの家」の雰囲気を知ってもらう工夫を行うと共に、新規居宅介護支援事業所へのアピールを行い新規利用者の獲得に努めていきたいと考えている。

<行事等>

4月	誕生会・バイキング・いちご大福作り
5月	誕生会・バイキング・あんぱん作り
6月	バイキング・おやつバイキング・居酒屋
7月	誕生会・バイキング・パン作り
8月	誕生会・バイキング・クッキー作り・パン作り・よさこい踊り子隊来所（大津子ども会・くじら連）
9月	敬老会・パン作り
10月	バイキング・おやつ作り・パン作り・居酒屋・朝倉第二小学校音楽会観覧
11月	誕生会・バイキング・パン作り・スイートポテト作り
12月	誕生会・バイキング・年忘れ会・パウンドケーキ作り・NTT ボランティア慰問・餅つき・朝倉第二小学校四年生交流
1月	誕生会・バイキング・パン作り・ホットケーキパーティー・居酒屋
2月	誕生会・バイキング・チョコパン作り
3月	誕生会・バイキング・ピザ作り

要介護延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	21	20	26	34	17	27	26	25	28	23	25	28	300

要介護2	75	79	87	87	78	81	83	83	86	68	67	71	945
要介護3	37	32	40	39	42	49	45	37	23	18	23	19	404
要介護4	57	28	29	30	28	25	27	27	46	51	56	43	447
要介護5	14	14	14	22	23	23	17	13	14	4			158
合計	204	173	196	212	188	205	198	185	197	164	171	161	2254
1日平均	9.3	8.2	8.9	9.2	9.0	9.3	9.0	8.8	8.6	7.8	8.2	7.0	8.6
平均介護度	2.84	2.64	2.58	2.62	2.80	2.69	2.63	2.57	2.65	2.66	2.64	2.48	2.65

3 小規模多機能型居宅介護 わかくさ

登録利用者数は、年度初めこそ登録数が伸びなかったが7月以降安定して目標数字は維持できた。しかし、平均介護度が昨年より0.34下がり経営面に影響が出た。新規以来自体も介護度1～2の方が断然多く、介護度3から上の方の依頼は殆どなかった。利用状況に関しては必要な場面に柔軟にサービス調整は出来たと思う。なかでも緊急宿泊対応するケースが多い一年だった。

サービス内容では、昔の馴染みがある場所への外出の機会を数回設け、地域交流・家族交流を行った。昔の思い出が蘇り普段見られない姿を見ることもできいい機会になった。外出を通してご利用者自身が「元気である・いたい」という思いを強く感じたようで、今後もいい形で外出も援助に取り入れご利用者・ご家族の思いを支援していきたい。また、地域医療の医師との連携も取れ始め、受診時や往診時に情報交換し生活や身体面での支援が継続して出来るようになってきたので今後も継続できるよう努力していく。

職員の人材育成では、法人研修は昨年同様安定して実施されたが、参加対象者が決まっており全職員が満遍なく研修を受け勉強できるまで計画出来なかった。外部研修への参加も依然少なかったので、次年度は積極的に参加出来る体制を作りたい。職員の資格取得の姿勢は積極的で、職員同士がよい刺激をしあっている。

行事

4月	お花見ドライブ（桜&つつじ） 誕生会 居酒屋 昼食バイキング	10月	須崎けんかま工場見学 9名参加 地区運動会 4名参加 昼食バイキング 針木地区交流（新高梨農家） 居酒屋
5月	朝倉第二小交流（一回目） 平成福祉専門学生交流 誕生会 居酒屋 運営推進会議 昼食バイキング	11月	誕生会 ひまわり見学 土佐市蓮池 菊見学 須崎けんかま工場見学 3名参加 昼食バイキング 朝倉第二小交流（二回目） 運営推進会議

			居酒屋 わかくさ美術展見学
6月	あじさい見学（ドライブ） 老人クラブ主催 「介護予防ブロック会」4名参加 誕生会 居酒屋 昼食バイキング	12月	朝倉第二小交流（二回目） 外食 2名参加 年忘れ会 誕生会 昼食バイキング もちつき 居酒屋
7月	誕生会 七夕バイキング 運営推進会議	1月	昼食バイキング 新年会 誕生会 運営推進会議 居酒屋
8月	誕生会 居酒屋 よさこい踊り子来演 昼食バイキング	2月	誕生会 昼食バイキング 居酒屋
9月	昼食バイキング 敬老会 運営推進会議 防災訓練 居酒屋	3月	昼食バイキング 運営推進会議 防災訓練 居酒屋

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1									1	1			2
要支援2													
要介護1	6	5	6	7	9	9	9	9	9	10	12	13	104
要介護2	7	7	8	9	9	9	7	7	6	6	5	5	85
要介護3	4	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	43
要介護4	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	3	3	43
要介護5	3	2	2	2	3	2	2	1	1	1	2	2	23
計	24	21	23	25	27	26	25	25	25	26	26	27	300
平均介護度	2.82	2.52	2.47	2.40	2.33	2.42	2.28	2.44	2.20	2.20	2.23	2.15	2.37

機能別延利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	349	344	319	338	376	360	361	360	382	342	317	358	4206
訪問	370	409	377	390	371	462	482	457	474	411	383	479	5065
宿泊	80	90	72	91	112	100	90	100	111	90	85	100	1121

計	799	843	768	819	859	922	933	917	967	843	785	937	10392
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

研修報告（内部・外部）

	内部研修	外部研修
4月	職員の心得	
5月	コミュニケーション技術 ～私がNo1! 演習～ 法人研修「チーフ・リーダー研修」1回目	
6月	感染症 ～食中毒～ 法人研修「新人研修Ⅱ 利用者一人ひとり えを知り、リスクを考える」 「新人研修Ⅰ やりがいのある仕事のために、 自分たちが考えること」	
7月	薬マニュアル～見直し検討会～ 法人研修「接遇研修」	介護支援専門員研修：講師（1名） 県介護福祉士会主催「音楽療法・笑いヨガ」 1名 老施協：四国大会（1名） 高知県小規模多機能型居宅介護事業所連 絡会：勉強会（1名）
8月	認知症サポーター ～キャラバンメイトについて～ 法人研修「セクハラ・パワハラ研修」	
9月	高齢者虐待～高知県の対応状況など～ 法人研修「課長・管理者・主任研修 苦情へ の対応を考える」	
10月	高齢者の食事	
11月	感染症 ～ノロウイルス～ 法人研修「接遇研修 専門職のみ」 〃 「チーフ・リーダー研修」2回目	
12月	血圧の測り方 ～水銀計を使って～	
1月	身体拘束 ～確認テスト～ 法人研修「チーフ・リーダー研修」3回目 〃 「新人研修Ⅰ」2回目	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡 会主催：全国大会（1名）
2月	これからの小規模多機能型居宅介護と は？を考える 法人研修「ストレスチェック制度について」	

3月	高次脳機能障害について 法人研修「ストレスチェック制度について」 〃 「チーフ・リーダー研修 基調講演」 企業組合佐もん工房：代表理事 所紀光氏 法人研修報告会	高知県小規模多機能型居宅介護事業所連 絡会：勉強会（3名） 「特別講演 魅力あふれる介護の現場の つくりかた」 講師：袖山卓也氏
----	--	---

4 ホームヘルパーステーションやすらぎ

介護保険制度、予防給付、支援費制度においては、利用者が安心して在宅で暮らせるよう、又身体的、精神的にも自立した生活が送れるように定期的に評価、見直しを行い状態に添った援助を行う事が出来た。介護保険適用枠外ホームヘルプサービス事業では、利用者や介護者の体調悪化時等、必要時に訪問援助することで、「安心して在宅生活を送れる」と喜んでもらえた。

- ① 外部の研修会には人員不足のため多くは参加出来なかったが、月1回行うヘルパー会においては計画的に議題を決めて学習会を行う事が出来た。(援助の質の向上が図れた。) 又法人全体の内部研修にも職員全員が参加し学習する事が出来た。
- ② 住み慣れた地域で利用者が安心して在宅生活が継続出来るよう、居宅介護事業所や医療機関、高知市とも連携を図りながら対応出来た。
- ③ 在宅で閉じこもりがちな利用者に気分転換や社会的交流が行えるよう、デイサービスや、地域活動への参加を呼びかけた。また在宅介護センターわかくさで開催される「お茶屋」「居酒屋」に参加してもらい、利用者同士の交流が図れ楽しみな行事となり大変喜んでもらえた。
- ④ 支援費制度においては利用者が自立できるよう支援し、外出介助では社会生活上必要不可欠な外出及び地域活動への参加や余暇活動等を支援した。
- ⑤ 27年度は、訪問介護事業所の知識や経験豊富な職員を配置し職員資質の向上、業績アップを図ったので、事務処理、連絡調整、相談等については職員や他事業所に不便を掛けることなく業務を行うことが出来た。実習生の受け入れ対応についても細かい配慮が出来た。しかし今年度も人員不足状態に加え職員の体調不良や、勤務時間の制限等（曜日希望等あり）もあり件数を確保することが出来ず業績を上げる事が出来なかった。結果平成27年度をもって事業廃止となる。

介護保険制度 訪問介護月別利用者延べ件数及び実利用人員

		身体	生活	身体・生活	計	実人員
4月		39	159	27	225	32
5月		30	136	29	195	29

6月		29	152	33	214	30
7月		32	149	30	211	29
8月		31	135	29	195	33
9月		27	144	26	197	31
10月		32	141	27	200	31
11月		24	125	23	172	29
12月		28	135	23	186	33
1月		32	115	22	169	31
2月		28	94	23	145	28
3月		12	9	3	24	6
合計		344	1494	295	2133	342
内訳別割合		16.1%	70%	13.9%		

介護予防 訪問介護月別利用者延べ件数及び実利用人員

	予防Ⅰ	予防Ⅱ	予防Ⅲ	件数	実人員
4月	59	70	31	160	26
5月	53	65	23	141	24
6月	53	65	24	142	22
7月	55	69	28	152	25
8月	40	54	31	125	20
9月	48	42	22	112	18
10月	40	46	24	110	18
11月	40	50	24	114	18
12月	39	48	23	110	18
1月	42	45	19	106	19
2月	32	44	24	100	16
3月	21	26	0	47	8
合計	522	624	273	1419	232
内訳別割合	36.8%	44%	19.2%		

障害者支援費制度 訪問介護月別利用延べ件数及び実人員

	居宅介護	同行援護	ガイド	計	実人員
4月	46	9	15	70	6

5月	41	3	12	56	5
6月	41	0	10	51	4
7月	39	1	8	48	3
8月	31	0	9	40	3
9月	31	0	10	41	3
10月	38	0	11	49	3
11月	35	0	11	46	3
12月	34	0	12	46	3
1月	35	0	6	41	3
2月	38	0	8	46	3
3月	10	0	7	17	2
合計	419	13	119	551	41
内訳別割合	69%	14%	17%		

介護保険適用枠外ホームヘルプサービス

	件数	実人数		件数	実人数
4月	13	4	10月	23	6
5月	13	4	11月	20	5
6月	11	2	12月	23	5
7月	14	3	1月	22	5
8月	11	2	2月	15	5
9月	15	4	3月	9	3
			計	189	48

5 高知市在宅介護支援センター あさくら

(1) サービスの状況について

ア 利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1-2	86	85	86	90	90	94	97	93	95	90	92	90	1088
要介護 3-5	42	41	37	38	40	38	40	38	40	41	41	30	466
要支援 1-2	30	30	30	29	26	26	24	25	26	28	28	28	330
計	158	156	153	157	156	158	161	156	161	159	161	148	1884

平成 27 年度ケアマネージャー4名の体制にて、年間延 1884 件のケアプランを作成

した。月平均では 157 件。予防件数を半数でカウントすると、ケアマネージャー一人あたり月平均 35.8 件であった。

イ 加算の状況（要介護ケースのみ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初回加算	4	6	3	4	9	5	8	3	5	2	5	1	55
特定事業所加算Ⅱ	128	126	123	128	130	132	137	131	135	131	133	128	1562
入院時情報提供 連携加算Ⅰ	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4
小規模多機能型 連携加算	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退院退所加算	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
予防初回加算	0	1	1	1	0	1	1	1	1	3	1	1	12

初回加算は年間延 55 件を算定し、内訳は新規 37 件、予防から介護へ変更 8 件、退院退所等によるサービス再開 9 件、介護度 2 段階以上のアップ 1 件であった。

入院や老人保健施設への一時的な入所ケースに対して、医療機関や施設関係者との必要な連携を行い、連携加算・退院退所加算を算定した。今後も、必要な連携を積極的に行うことで、安心して入院入所や在宅復帰ができるよう支援を行う必要がある。

主任介護支援専門員 1 名兼任と専任介護支援専門員 3 名の職員配置にて特定事業所加算Ⅱの算定を行い、24 時間の相談体制、困難事例の受け入れ、定期的な研修、適切なケアマネジメントに努めた。

(2) 適切なケアマネジメントについて

ア 介護保険の理念である「自立支援」の考え方にに基づき、適切なマネジメントを心がけた。

委託にて介護予防ケアプラン作成を行っているが、必要なケースに対し、介護保険予防サービスに加え宅老所や地域開催の「いきいき百歳体操」参加を計画し、介護予防への取り組みと同時に、地域で住民同士の繋がりがあがる生活を送ることができるようマネジメントを行った。その結果、介護度の改善に伴い、介護保険サービス利用回数軽減、また介護保険サービス利用が終了となるケースもあり、自立支援への効果も得られている。

イ 医療ケアニーズのあるケースに対して、介護保険サービス（訪問看護・居宅療養管理指導）の計画、また必要なケースに対しては医療保険サービス（医療訪問看護・往診など）の計画を行うことで、健康管理、必要な医療ケアを受けながら在宅生活を継続できるよう提案しケアプランを作成した。今後も、医療機関からの退院や重度者の在宅生活受け入れ体制がとれるよう、多職種との連携が重要と

考える。

- ウ ご利用者への関わりだけではなく、介護者であるご家族の介護負担軽減を目的とし各種サービスの計画を行った。レスパイト目的のデイサービスやショートステイ、老健入所、医療機関への入院（相談）などを各関係機関と連携をとり、介護者の負担軽減を図り、長期の在宅介護が可能となるよう努めた。ほとんどのケースが継続的にレスパイト目的のサービスを利用している点から、在宅介護を長期で考えるのであれば、こういった介護サービスの計画は重要と考える。
- エ 独居・高齢夫婦世帯・障害者を含む世帯・共働き子供世帯との同居など、さまざまな理由にて介護保険サービスのみでは生活が困難なケースに対して、高齢者福祉サービス・障害者福祉サービス・民間サービス（配食サービス・自費ヘルパーなど）を提案したケアプランを作成し、在宅生活を支えることに努めた。
- オ 定期的に開催されている西部ブロック会への参加を始め、高知県や高知市の主催する研修に参加をし、ケアマネージャーとしての資質向上、介護保険や高齢者福祉に関する知識を広め深めた。また、事業所内でも週1回定期会を開催し、随時にケース検討や制度の確認を行い、職員の資質向上に努めた。

(3) センターとしての活動

居酒屋、餅つきなどの行事を通じて地域の方と交流を図ることができた。

6 高知市西部地域高齢者支援センター あさくら出張所

H27年度より2名体制になり、相談支援や実態把握・見守り訪問、地域活動への参加等をより手厚く行えるよう取り組んだ。適宜、管轄高齢者支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関や民生委員等と連携を図り適切な対応を心掛けた。また、地域活動や地域内連携協議会等の地域の会にも積極的に参加し、地域の身近な「相談窓口」としての出張所の啓発を行った。

(1) 地域活動

○地域活動

地域の食事会（野の花昼食会、フルーツのイトウ昼食会、宅老所たんぼぼ朝倉や市民会館での昼食、二金の会での飲み会等）や祭り（鵜来巢町内会納涼祭、民児協主催敬老会）等の行事、百歳体操、サロン等に参加し地域の方と情報交換をしたり、健康・介護に関する情報提供を行った。

朝倉まちづくりの会には交代で毎月参加し、高齢者が安心して暮らせる街づくりについて地域住民や高知大生等と協議した。H28年3月末には前年度から取り組んでいた安心・安全マップが完成。今後地域住人が集まる小・中・高校、大学や市民会館等に掲示してもらう予定。

H27年9月には、朝倉小学校区と朝倉第二小学校区に地域内連携協議会が立ち

上がり、出張所も地区に分かれて定例会に参加している。

出張所主催のサロン「お茶屋」は、母体の協力もあり毎月開催することができた。わかくさ納涼祭については台風の為中止。長い坂の会美術展には地域の方から多数の作品を出展していただき、見学者からは次回作への意気込みも聞くことができた。4月には海老川宅老所にて認知症サポーター養成講座を開催。他地区の講座には7回協力。支援センターや他出張所と連携し、住みなれた地域で安心した生活ができるよう啓発に取り組んだ。

9月には百歳体操新規開催に向けたフィールドワーク、10月に鶴来巢町内会のマップ作成の中で地域のマップ作りを行い、地域の情報整理を関係機関と共に行った。百歳体操については、若草町に1ヶ所の新規会場が立ち上がった。障害児デイサービス・わかくさの空き時間を利用し、H28年1月12日より開始。また、H28年度中に針木本町の民家と曙町市営住宅の集会所で立ち上げが予定されており、開催に向け支援中。

認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活の継続ができるよう、認知症カフェを立ち上げたいとの声が地区内の事業所から上がっている。他地区の認知症カフェを視察したりお世話役交流会に参加、来年度の新規開催に向け準備している。

○情報提供

地域活動や個別ケース支援を通じて社会資源の把握に努め、新規の関わりや相談時には情報提供を行った。母体法人のホームページの活用は十分には行えなかった。

(2) 総合相談・支援

ア：地域住民からの相談、各種申請代行依頼、昨年度からの継続ケースのモニタリング、安否確認等、通常業務において訪問を原則に実態把握を行った。把握した情報は、高知市要援護者台帳へ登録しデータ管理・活用を行った。平成27年度の実態把握述べ件数は1,907件（うち訪問延べ件数は959件）であり、年間実態把握実人数は821人（新規：178人）であった。

イ：独居の認知症のケースや虐待疑いのケースでは、西部地域高齢者支援センターや健康増進課、民生委員、家族等と情報を共有し連携して対応した。介護認定申請の代行や結果が出るまでの生活支援、見守り、病院受診等を協同で行った。

(3) 研修等

高齢者支援センター担当者連絡会や西ブロック会等の定期会、外部の研修（認知症ケア、虐待予防研修、地域づくり研修、スキルアップ研修等）には積極的に参加し、情報収集や知識・技術の向上に努めた。

7 くつろぎの家 訪問入浴

平成 27 年度における新規利用者は 16 名で、死去、入院等の理由により 20 名の利用者が訪問入浴を中止されている。利用者の方の中には訪問入浴と通所サービス（くつろぎの家）を併用されるようになった方や、訪問入浴を終了し通所サービスを利用開始されるなど、サービス提供後に ADL の向上により通所サービスを開始された方も数名おられた。

今年度を通して新規利用の依頼に末期癌等の終末期の方が多く、利用開始後、短期間でご利用が終了されるケースが多数で利用人数の減少が目立った。今後も終末期のご利用者や短期間のご利用者のニーズ自体は見込まれるため 26 年度を通しては、26 年 4 月～6 月及び 27 年 1 月～3 月は稼働が少ない状況があったが、26 年 7 月～12 月は比較的安定して稼働できていた。26 年 4 月～6 月まで入院者・体調不良による中止が多く稼働数が減少した。26 年 11 月～27 年 3 月には 8 名の利用中止者等があり、また長期入院の方もおられ 2 月 3 月は空き枠が多い状況だった。また 27 年 1 月の交通事故に伴い修理の為、入浴車が運行できない状況が 2 ヶ月ほど続き利用者 1 名が交通事故時より休止（光熱費の関係）・1 名 1 月末より利用中止（光熱費の関係で別事業所への移動）となった。

空き時間は書類の整理作成や営業活動（訪問入浴のしおり等を作成手渡し PR を行った。）を行った。又デイサービスへの応援も行った。

	延べ人数	昨年同月対比	実人数	1 日平均	稼働日数
4 月	73	-5	17	3.5	21.0
5 月	73	-18	18	3.6	20.0
6 月	74	-8	19	3.5	21.0
7 月	90	17	19	4.1	22.0
8 月	84	8	19	4.0	21.0
9 月	90	15	19	4.5	20.0
10 月	94	-1	19	4.3	22.0
11 月	71	-9	19	4	18.0
12 月	79	-1	19	4.2	19.0
1 月	68	-16	18	3.6	19.0
2 月	57	-14	16	3	19.0
3 月	79	11	18	3.5	22.0
合計	932	-21	220	3.8	242.0

8 くつろぎの家配食サービス

利用者の食事確保及び安否の確認を目的と、利用者との会話を大切し、精神面への気配りにも心掛けた。また、利用者の状態に合った食事形態で対応することにより利用者の満足度向上にも努めることができた。可能な限りの配達エリア拡大にも取り組む事ができた。配食数も前年度よりは増えたが収益増には繋がらず、H27年度をもって事業廃止となる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
委託	昼	81	103	115	113	97	52	57	84	91	95	90	54	1,032
	夕	129	161	127	115	106	94	110	219	148	145	106	81	1,541
	計	210	264	242	228	203	146	167	303	239	240	196	135	2,573
民間	昼	225	206	200	240	261	247	294	219	231	239	238	177	2,777
	夕	616	694	672	663	684	585	604	602	559	533	545	546	7,303
	計	841	900	872	903	945	832	898	821	790	772	783	723	10,080
合計		1,051	1,164	1,114	1,131	1,148	978	1,065	1,124	1,029	1,012	979	858	12,654
1日平均		35.0	37.5	37.1	36.5	37.0	32.6	34.4	37.5	33.2	32.6	33.8	27.7	34.6

9 高齢者住宅等安心確保事業（若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

活動内容

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事	関係機関との連絡	日常生活上必要な援助	その他
20件	1,382件	4件	12件	34件	138件

緊急通報

- ・誤作動・・・4件
- ・緊急対応・・・1件（生活サイクル通報あり、本人ベッドで寝ていた。気分が悪く薬を飲み寝ていたとのこと。気分も良くなったとの事で様子を見る事となる。）
- ・その他・・・1件（頭が重たいフラフラするとの事で血圧を測定する。数値が高く薬があるとの事で服薬し寝るとの事で様子を見る事となる。）

10 総務部門

介護報酬の減額等もあり、センター全体として厳しい経営状況の中、経営安定化に向け経費削減に努める年度であった。しかし、経営安定化に向けた取組みも虚しく、訪問介護事業、配食事業の2事業の廃止という結果となった。

業務の効率化については、今後もより一層の改善を要し、処理方法・能力を含めた取組みを今後も継続して行う必要がある。また、平成30年度から改正となる第7期介護報酬改定も視野に入れ、より一層の経費削減、業務効率等の見直しを常に行う必要がある。

災害・防災関係については、「緊急地震速報」を活用し、地震発生後の出火想定実施し、職員の防災意識の高揚と利用者の安全確保を前提に、今後発生する自然災害等への対応力の強化に、一定ではあるが注意喚起も含め努めることができた。

地域活動としては、毎月最終金曜日に開催する、居酒屋では、各担当事業所の利用者や家族の他、地域の方々にも来店いただき、限られたスペースではあるが、地域の交流の場として、毎回盛況で終えており、今後も継続し、開催していく。

11 実習受け入れ状況

団体名	実習内容	期 間	人 数
平成福祉専門学校	施設見学	H26・5/21・22	48名
	施設見学	H27・11/27	6名
高知県立大学	介護実習 I	H27・3/2～3/6	3名
日本福祉アカデミー	介護職員実務者研修	H27・5/13～5/20	4名
		H27・9/10～9/17	5名
		H27・11/13～11/20	3名
		H28・3/11～3/18	4名
高知短期大学	施設実習	H26・6/22～7/10	1名

12 研修参加状況

月	日	研修名	主催者	人数
5	8	高知県介護支援専門員専門研修 (専門研修課程 I)	高知県社会福祉協議会	1名
	22	同行援護従業者養成研修 (一般課程)	高知県社会福祉協議会	1名

6	8	地域包括支援センター 職員初級研修	高知市高齢者支援課予防支援係	1名
7	11	アクティビティ (音楽療法・笑いヨガ)	高知県介護福祉士会	2名
	28 29	第64回四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県老人福祉施設協議会	2名
8	21 22 23	高知県介護支援専門員更新研修 (専門研修課程Ⅱ)	高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	1名
	28 29	高知県主任介護支援専門員研修	高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	1名
	31	高齢者虐待予防研修会	高知市健康福祉部高齢者支援課	1名
9	9	多職種による「見える事例検討会」講習会	高知市高齢者支援課	1名
	9	認知症ケア研修会	高知市居宅介護支援事業所協議会	2名
	25	中央ブロック 事務職員勉強会	高知県老人福祉施設協議会	1名
10	2	第49回高知県産業安全衛生大会	高知労働局健康安全課	1名
	14 15	高知県老人福祉施設協議会 事務職員研修会	高知県老人福祉施設協議会	1名
10	22	難病学習会 (筋萎縮性側索硬化症 (ALS))	高知市保健所 健康増進課	1名
	23	多職種多機関研修会「多職種で支える在宅ホスピスケア」	高知市西部地域高齢者支援センター	1名
	27	マイナンバー実務対応セミナー	高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課	1名
11	2	ストレスチェック実施者養成研修	株式会社ウエルネット	1名
	13	マイナンバー制度と個人情報保護について	ミニパック株式会社	1名
	14	多職種で考える地域連携緩和ケア研修会	高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会	1名
12	9 10	四国ブロックカンントリーミーティング (in 愛媛)	高知県老人福祉施設協議会	1名

	1 3	平成27年居宅ケアマネ基礎研修会	高知市居宅介護支援事業所協議会	2名
1	2 1	長い坂の会 チーフ、リーダー研修会	社会福祉法人長い坂の会	4名
	2 1	平成21年度ノーリフティングケア研修 報告会	高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	1名
	2 2	難病学習会（神経難病の患者さんについての事例検討会）	高知市保健所 健康増進課	1名
2	1 1	平成27年度全国地域包括・在宅介護支援センター研修会	全国地域包括・在宅介護支援センター協議会	1名
	1 2	平成27年度高知県老施協デイサービスセンター研修会	高知県老人福祉施設協議会	2名
	1 7	認知症ケア研修	高知市高齢者支援課 介護予防支援係	5名
3	1 1	認知症実践力向上研修会	高知市高齢者支援課 介護予防支援係	2名
	1 3	在宅医療・介護連携推進事業研修会	高知市健康福祉部高齢者支援課	2名

Ⅲ 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

1 うららか保育園

- (1) 保育の原点を児童憲章におく
- ・ 児童は人として尊ばれる
 - ・ 児童は社会の一員として重んぜられる
 - ・ 児童はよい環境の中で育てられる

基本方針

- ・ 子どもの人権を尊重する保育園
職員一人ひとりが子どもの命を守り育み、一人の人間として認め、毎日の保育を実践する。
- ・ 子どもの最善の利益を考える保育園
子どもの未来を見通し、広い視野で発達の過程を見守り、思いや感動を共有して保育する。
- ・ 子どもと親と保育者が共に育ちあう保育園

育児は「育自」子育ての良きパートナーとして伸びよう。

保育目標

自然に親しみ豊かな心をそだてる

おもいやりのあるやさしい心を育てる

健康で丈夫な身体を育てる

運営目標(保育への心がまえ)

- ① 家庭や地域と連携し、子どもが健康で情緒の安定した生活が出来る環境を用意する。
- ② 遊びや体験を通じ、将来社会人として自立する土台がしっかり出来るよう、年齢に応じた目標をもち、豊かな人間性を持った子どもを育てる。
- ③一人ひとりの子どもを正しく理解し、心身の発達の良い援助者になれるよう資質の向上に努める。
- ④ 保護者や地域の人々の理解や協力を得ながら園作りが進められるよう、コミュニケーションを大切に

(2)取り組み

基本方針、保育目標、保育への心がまえを大事にしながら、それぞれの部署で役割分担をしながら保育を積み重ねてきた。又中学校、高等学校の職場体験学習、県医師会看護専門学校の小児看護実習生の受け入れや施設病院内のデイサービス訪問、春野町や地域のイベント諸行事への積極的な参加も行い喜ばれた。保護者会も園への行事等の協力だけでなく保護者会主催でバザーを行う等、活発な活動を行い保育園も協力して活動を盛り上げることができた。

- ①適切な役割分担と共に研修や実務による資質向上の充実に努めた。
- ②全職員での会議が取りにくいいため、朝の会・午睡時を利用しての報連相会・各部会等を行い、周知や共通理解に努めている。
- ③研修の中で園内公開保育を実施して午後意見交換、討議を行い保育の資質向上に努めた。
- ④月 1 回給食部会を行い献立や喫食について報告や検討を行い、給食内容の向上につなげる事が出来た。
- ⑤身体測定、誕生会、避難訓練、お点前(年長 5 歳児)、英語で遊ぼう(幼児組)
わくわくタイム(学研教室)年長組は 4 月から年間 30 回
年中組は 6 月から年間 20 回を実施している。
- ⑥一日保育者体験事業を行い、保護者の方に一日保育者になって保育士の仕事を体験しながら保育園での子どもの様子を知り、保育士と懇談をして色々な話をする事で保育園を身近に感じてもらう事が出来、好評であった。一日は長いとの声が出て半日

体験としたことで気軽に参加が出来ていた。

(3) 園児入園状況と園児数

定員 130 名

初日 在籍入 所承諾 児童数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計 (4~9月)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計 (10~3月)	合計
	乳児	6	8	9	9	9	9	50	9	9	9	9	9	9	54	104
	1.2歳児	55	55	56	56	56	56	334	56	56	56	56	56	56	336	670
	3歳児	26	26	25	25	25	25	152	25	25	25	25	25	25	150	302
	4.5歳児	57	57	57	57	58	58	344	58	58	58	58	58	58	348	692
	合計	144	146	147	147	148	148	880	148	148	148	148	148	148	888	1768

(4) 保育日数

土曜日(7:30~19:00)を希望登園としているので実質休日は日曜・祝日
年末年始(12/30~1/3)である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	25	23	26	26	26	23	27	23	24	23	24	26	296

(5) 特別保育事業

ア. 早朝・延長保育 利用人数 (18時30分~19時)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用 人数	62	67	66	66	65	70	72	69	65	62	63	64	791

イ. 一時保育(コーパー)

家庭で育児をしている保護者のリフレッシュタイム、また仕事の都合などで保育を希望する子どもたちを預かっている。昨年度から利用していた児が幼稚園等に入園したため、人数的には少なくなっている。また、担当職員の異動がありパート保育士3名での対応になった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	40	53	68	68	56	43	62	65	73	75	103	117	823名
平均利用数	3	4	4	4	3	3	4	5	5	6	7	7	

(6)子育て支援センター

①地域子育て支援センター事業

◎ ひろば型として

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・子育て等に関する相談・援助の実施
- ・地域の子育て関連情報の提供
- ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

②取り組み

- ・園庭、ホール、保育室を親子の遊び場・ともだち作りの場として提供し、園庭開放や体験保育を積極的に行った。
- ・栄養士や保護者・職員等によるセミナーを開催した。
- ・講師を招き、茶道、編み物、スクラップブック制作などを経験する活動を行う。
- ・情報提供や園行事に参加し、保育園の在園児との交流を図った。

③活動内容

- ・毎月「なかよし通信」を発行 ・育児相談の実施
- ・子育てセミナー実施(月1回)

育児講座等の実施

開催日	講座名	開催日	講座名
4月・6月・9月 11月・1月・3月	お点前	8月18日 8月・9月	多肉植物の寄せ植え講座 パワーストーンブレスレット
6月16日	「は・は・歯のはなし」	9月・10月	編んでみようコースター
7月・9月	スクラップブック	12月1日	クリスマスリース作り
1月・3月		12月18日	大人かわいくデコろう
7月・10月	ブリザーブトフラワー	1月8日	「感染症」について
7月22日	Tシャツを染めよう	3月3日	そらいろ人形劇観劇

- ・「園庭開放」を週5日 1日5時間実施
- ・毎月の行事……給食試食会・製作・エアランド・簡単おやつ作り
- ・保育園行事への参加……誕生会・避難訓練・秋の運動会・夕涼み会
クリスマス会・節分集会・ひなまつり集会

④利用状況

☆なかよし広場(月曜～金曜)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開放日数	21	21	21	22	21	20	22	19	20	19	19	20	245

参加 延べ人数	50	53	66	99	82	88	109	87	80	72	86	96	968
------------	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	-----

(7) 病児、病後児保育事業(ハンダー)

本年度は、厚生省の感染症情報や高知県の感染症情報の予測通り、例年より12月、1月の気温が高かった為、インフルエンザの流行が遅く、2月、3月にインフルエンザでの利用が多かった。

また、インフルエンザ同様、マイコプラズマ肺炎や、溶連菌感染症、流行性耳下腺炎等の登園停止期間が長い疾患では、病児室の利用期間が長く、感染上の問題でその疾患児のみの利用となる為、キャンセル待ちが多かった。利用者はうららか保育園在園児がやや多かったが、園外の園児等の利用も幅広くあった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	11	13	13	12	13	14	15	12	23	16	31	38	211

(8) 平成27年度体験学習・保育実習等受け入れ状況

学校名	月日	人数
春野高校インターシップ	8月4日～8月6日	5名
春野中学校体験学習	11月4日～11月6日	5名
県医師会看護小児看護実習生	5月19日～7月10日	42名
竜馬学園	2月15日～2月27日	1名
高知学園短期大学2年	11月9日～11月27日	1名

(9) 平成27年度 主な行事報告

月日	行事名	月日	行事名
4月1日(水)	始園式・入園式		
4月11日(土)	春の親子遠足	11月2日(月)	秋の遠足
5月9日(土)	こいのぼり参観日	11月4日(水)	秋の歯科健診
	保護者会総会	11月8日(日)	春野町文化祭ステージ参加
5月19日(火)	看護学生実習始まる(7月10日)	11月10日(火)	芋ほり
5月13・20日	内科検診	11月24日(火)	焼き芋パーティー
6月13日(土)	あじさい参観日	11月26日(木)	お店屋さんごっこ
6月17日(水)	歯科健診(広田歯科)	11月29日(日)	保護者会主催ハグザー
6月22日(月)	芋の苗植え		南ヶ丘文化祭参加(年中)
	ケーブルテレビ撮影(年長)	12月6日(月)	懇談会週間
6月29日(月)	プール開き 神事	12月11日(金)	お餅つき

7月4日(土)	夕涼み会	12月25日(金)	春陽荘餅つきに参加する
7月25日(土)	南ヶ丘夏祭り参加(幼児組)	1月12日(火)	交通安全教室
7月30日(木)	総合避難訓練 年長野外活動(仁淀川)	1月15日(金)	マラソン集会
8月1日(土)	プール屋根工事	1月22日(金)	一日入学(年長)
8月25日(火)	東小学校教員保幼小連携訪問	2月2日(火)	節分集会
8月31日(月)	長命荘訪問(年長)	2月20日(土)	第14回発表会(ヒアステージ)
9月5日(土)	なかよし参観日	3月3日(木)	そらいろ人形劇観劇
10月3日(土)	春陽荘秋祭り	3月11日(金)	お別れ遠足
10月11日(日)	第14回運動会	3月26日(土)	第14回卒園式
10月14・20日	内科健診	3月31日(木)	新学期(4月1日入園式) 準備の為午前中保育
10月17日(土)	ハビリ地域フェスティバル参加		

(10)職員の研修状況

平成27年度の研修状況(報告書作成有)

研修名	主催者	研修内容	参加職種	参加人員
乳児(1歳未満児)保育研修	高知市	乳児保育に必要な知識及び技術に関する	看護師・保育士	4
保幼小連携教育講座	高知県	課題解決に向けて協議を行い連携を図る	保育士	1
新規採用保育士幼稚園教員	高知県	保育士・幼稚園教員に求められるもの	保育士	2
平成27年度人権研修会	高知市	人権尊重に基づく行動がとれる職員を目指す	保育士	9
アレルギー対応研修	高知市	アレルギー児の緊急時の対応等について	保育士・看護師	4
春野地区人権啓発推進総会	春野町	総会・春野西小学校公開授業	保育士	1
基礎研修Ⅱ	高知県	専門性を高め自己の保育課題を持つ	保育士	2
主任保育士・幼稚園教頭等の研修	高知県	企画力指導力等に関しての経営的資質の育成を図る	保育士	1
幼児期の運動遊び講習会	高知県	幼児期運動指針に沿った運動遊び	保育士	2
10年経験保育士研修Ⅱ	高知県	ミドルゲートに求められるもの	保育士	1
保育士幼稚園教員ミドル研修2年次	高知県	専門性やリーダー性を高め資質指導力の充実	保育士	1
園長研修	高知県	園の管理運営の責任者としての育成を図る	園長	1
HANAセミナー マーチング		マーチング研修	保育士	2
プール衛生管理講習会	高知市	プールの衛生管理について・普通救命Ⅲ講習	保育士・看護師	5
平成27年度防災教育研修会	高知県	南海トラフ地震に備え危機管理能力防災力向上	保育士	2
福祉サービス苦情解決セミナー	高知県	児童福祉施設における苦情対応について	主任保育士	1
メンタルヘルスマネジメント実施者講習	大阪	ストレスチェック制度に向けて実施について	看護師	1
保育技術専門講座	高知県	年間を通し様々な研修が行われ保育士として資質の向上を図った	保育士	5
高知市保育の日	高知市	永年勤続者表彰	保育士	4

防火・防災管理講習	高知県	防火・防災管理者資格講習	保育士	1
乳児保育研修第2回研修会	高知県	こどもの感染症集団生活で気を付けること	保育士・看護	3
地域子育て支援センター職員交流会	高知市	母子保健事業の紹介等	保育士	3
食物アレルギーセミナー	高知市	笑顔輝く食の未来	調理員	1
基本的な生活習慣に関する講演会	高知県	基本的な生活習慣パズレット活用について	保育士	3

2 放課後児童クラブ

- (1) 活動場所 * 東小学校放課後児童クラブ 東小学校校内
指導員 4 名 (支援指導員を含む)
* 西小学校放課後児童クラブ 西小学校校内
指導員 4 名 (支援指導員を含む)
* 南ヶ丘放課後児童クラブ 児童クラブ 第1・第2 南ヶ丘 2 丁目
第1 指導員 4 名 (支援・補助指導員含む)
第2 指導員 2 名
- (2) 活動日 月～金 下校時刻より 18 時まで 第三土曜 8 時 30 分より 17 時
春・夏・冬休み・振替休校日 8 時 30 分より 17 時
一日開設時間延長平成 27 年 12 月 1 日から 18 時まで延長を行う。

- (3) 運営目標
1. 児童の出欠の確認をし、その日の健康状態を把握する
 2. 室内遊びや外遊びの約束事の指導を徹底する
 3. おやつ提供・衛生面の指導
 4. 宿題、学習援助、

- (4) 活動報告 指導員がルールについて共通認識を持ち、同じ姿勢で指導を継続することで、落ち着いてきた。各児童クラブでの内容等も統一が出来、互いに連絡相談が出来ている。

(5) 春野東小学校放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	19	23	22	20	20	22	20	20	20	21	21	249
在籍者数	50	50	49	50	53	53	53	51	49	47	46	46	597
出席延人数	831	721	858	852	656	804	868	731	717	679	695	722	9,134

(6) 春野西小学校放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21	21	22	22	21	21	23	19	20	20	20	21	251
利用 者数	48	46	47	45	46	44	45	42	42	42	42	42	531
出席 延人数	807	845	896	776	532	804	852	707	742	645	726	701	9,033

(7) 春野南ヶ丘第一放課後児童クラブ[※]利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21	19	23	22	21	20	22	20	20	20	21	21	250
利用 者数	58	58	57	58	57	54	52	49	44	43	43	44	673
出席 延人数	898	729	874	875	656	677	749	689	710	614	592	709	10,436

(8) 春野南ヶ丘第二放課後児童クラブ[※]利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21	18	23	22	21	20	22	20	20	20	21	21	249
利用 者数	31	31	30	30	30	29	28	28	27	27	27	27	345
出席 延人数	546	491	575	550	404	442	505	458	448	420	425	455	5,719

IV 公益事業

1 平成福祉専門学校

(1) 本校の取り組み

介護福祉事業に従事する介護福祉士を養成する施設として、広く専門的な知識と技術を習得させ、更に創造力を養い、社会福祉の推進に貢献する有能な人材を育成するために下記のことに取り組んだ。

(2) 教務課

①実践目標

2年間で単位を取得し、「資格取得時の到達目標」の到達をめざす

- ・三領域のカリキュラムの見直し
- ・関連科目のシラバスの調整

②取り組み

ア 国家試験に向けた教育体系

平成28年度入学生より介護福祉士資格取得方法の変更の方向で法改正が進んでおり、国家試験受験科目外の強化の廃止等、授業のスリム化移行期間として調整した。

イ 非常勤講師との情報交換会

情報交換会ならびに授業来校時に、情報の交換・共有を図った。

ウ 法人福祉施設での体験学習

専門職としての自覚醸成並びに必要な知識技術の修得の為に、4月初年から新生の施設見学を行った。他にも、法人関連施設で利用者と交流し介護の実際を観察、体験する授業形態をとり教育効果を高めた。

エ 実習施設との連携

実習施設との打合せ会を年2回実施し、学生が各段階、各個人の課題を整理し、目標達成のために、施設の実習指導者との情報交換をはかり協力体制を確認した。

(3) 学生課

①実践目標

- ・人間力を養う
- ・福祉の「こころづくり」に努める
- ・豊かな人間性の醸成
- ・校内・理息の環境美化

②取り組み

・ボランティア活動の積極的推進

年間を通して福祉施設のボランティア活動への積極的参加を呼びかけ、見分を広げ自己研鑽に励むよう指導した。さらに「中国四国盲ろう者大会」「龍馬マラソン」など国・県主催の行事にも参加し、参加者サポート、大会運営に協力した。

・新入生宿泊研修

学生間の人間関係づくりや介護福祉士になることの動機づけ、および

学生と教員の相互理解を図ることを目的に実施した。

③家族との連携

・教育振興会会報の発行

学校広報誌「爽快」を年3回発行し、家庭、高等学校、福祉関係機関に学校の活動内容や学生の活動報告（レポート）等を発信した。

・支部地区会の開催

保護者との連携を図るため、個人面談会を計画した。学校生活の状況報告や、今後の授業・実習・進路などについて情報交換等を実施し、三位一体となり学生の人間性の醸成に努めた。

・学生同士の交流・強調

学生自治会を主体に、プレイデイ、クラスマッチ、学園祭等を計画・実施し、学生同士協力することで互いを思いやり、協調する心を育んだ。さらに、よさこいソロプチミストのチャリティー活動、介護の日イベント、献血、交通安全運動、点字図書の寄贈等、地域に密着した活動に積極的に参加した。

④学生指導

学生課を中心に、クラス担任と協力し、年度初めを中心に登下校指導やマナー等の指導面を強化した。特に、登下校指導においては、学生自治会が主体となって計画し、実施したが不十分な点も多く継続的、効果的な方法や体勢を考える必要がある。特に、生活指導の強化（マナー、言葉遣い、挨拶など）を図り、職業人としての自覚を高める必要がある。

（４）業務推進課

①実践目標

・学生募集の成功

ア 高校や地域への働きかけの強化

イ 感心の持てる説明・対応ができるようレベルの向上

ウ きめ細かなフォローの徹底

②取り組み

ア 高校には、合計46回訪問して体験入学への参加周知や奨学金等の周知、説明会、体験入学等で出会った高校生の進学に向けての不安や疑問を解消した。福祉教育授業として、県内の高校、小学校で合計48回実施した。

イ 高知県専修学校各種学校連合会、説明会業者10社で合計52回の説明会に参加して、介護福祉分野の魅力、学校の特徴、雰囲気等を説明し体験

入学への参加に結びつけた。

ウ 体験入学、説明会に参加してくれた学生に向けて、手紙を送るなどの、きめ細かなフォローの徹底が出来ていない為、次年度取り組む。

(5) 総務課

①実践目標

- ・明確な仕事と簡潔な処理
 - ア 役割分担に応じた業務を的確に行う
 - イ 経費削減の徹底化
 - ウ 仕事の簡素化と他業務との連絡の徹底

②取り組み

- ・各自が仕事の優先順位を考え、無駄を省いて取り組むようにした。
 - ア 提出期限に間に合うよう、早めに取り組む努力をした。
 - イ コピー用紙を再生紙に変更する。
学生トイレのペーパータオルは廃止にする。
 - ウ シルバー人材センターに委託していた校内の掃除を中止し、職員で行う体制に戻した。
 - エ 机や書棚の配置替えを行い、書類を分かりやすく取りやすい位置に移動した。

(6) 介護技術講習会

この講習会は、法人職員が指導者としての協力体制のもと実施している。

法改正に伴い介護福祉士資格の受験方法が変わるということもあり、申込み人数が予定より少なく、6回の実施を予定していたが実際には4回の実施となった。

(7) 就職について

平成27年度卒業生の就職希望者については、以下のとおりである。

介護老人福祉施設	20人
介護老人保健施設	3人
医療機関	4人
自立支援施設	9人
有料老人ホーム	1人
<u>居宅サービス関連事業</u>	<u>3人</u>
	40人

V 法人各種委員会活動報告

1 人材確保対策委員会

(1) 総括

2年目となったが、昨年に引き続き職員確保に向けて活動を中心に行った。年度初めの介護職員の不足から始まり、引き続き調理員・保育士の慢性的な人材不足となったが、各施設で調整を行いながら何とか1年を乗り切ることができた。

介護職員については、正規職員3等級の配置の成果もあり、ふくし就職フェアを中心に活動を行った結果複数名の採用に繋げることができた。

今年度から誕生日休暇が取得できるなど福利厚生面での充実もあり、職員の平均勤続年数の長期化や離職者数の減少などにつながっており、今後も働きやすい職場づくりに力を入れる必要がある。

(2) 主な活動内容

月	内 容	詳 細
5月	・キューボへ求人広告掲載	介護職員・保育士・調理員 5/3(日)・ 5/17(日)・ 5/24(日)
6月	・キューボへ求人広告掲載 ・公用車に求人チラシを掲示 ・ミニ面接会	6/14(日) いの町職安で開催(2名採用)
8月	・第1回ふくし就職フェア	8/16(日) 高知市文化プラザカルポートで開催 (16名面接の結果、3名採用)
11月	・介護就職ダイ面接会	11/11(水) 高知文化プラザカルポートで開催 (5名面接の結果、採用なし)
1月	・第2回ふくし就職フェア	1/30(土) 高知市文化プラザカルポートで開催 (6名面接の結果、1名採用)

2 総務経営委員会

平成27年4月からの第6期介護報酬改定により、報酬減となった高齢者福祉事業と、学生確保が著しい介護福祉士養成事業は、年度当初より赤字予算でのスタートとなった平成27年度に対し、より一層の経費削減に対する検討を行い、今後更なる厳しい経営

状況を踏まえ、事務職員個々の資質向上・危機意識の高揚に努めるとともに、安定経営を目指し、委員会を開催し協議してきたが、結果的に法人全体の赤字決算となってしまった。

経費削減を重要課題として、各拠点委員に対し、収入に対する支出バランス等を日々注視し、利用者等のサービス環境の向上と安定に対する経費削減を行うことなく、その他の経費の購入業者、品質等の検討を重ね、試行、改善等を実施してきたが、一定の成果がある反面、大幅な削減に結び付くことは極めて難しい結果となった。今後については、物品の購入や修繕、また給食材料費等が経費の大半を占め、地元または県内企業を中心に検討を重ねてきたが、より一層の経費削減を遂行するためにも、アスクル等のインターネットによる購入を拡大し、同等以上、安価な物品購入を前提として、インターネットの活用を更に検討し、一層の経費削減を目指す必要がある。ただし、インターネット上のカタログ販売に近い業者アスクル等とは違い、インターネット上の店舗であるため課題も多くあり、トラブル回避と、信頼度等を十分に精査した購入が必須と考えられるため、より慎重な協議と検討、業者選定等が必要である。

各拠点委員・事務職員の資質向上については、新会計基準での会計処理が1年目であったこともあるが、今一つ理解が薄く、新会計基準の理解を含め、会計処理方法の統一に努める一年であった。ある一定のレベルには達するものの、統一の見解の周知と理解、把握にはまだまだ至らない箇所が多いが、近々の重要課題を法人事務機能統一化として、各拠点委員・事務職員個々の知識・技術の均等化に現在も継続し取り組んでいる。しかし、平成27年度決算処理を終え、各拠点、サービス区分等の処理内容等と、職員個々の知識・技術等には、まだまだ課題があり、経費削減等の検討に併せ、委員・職員個々の能力と効率の向上、平成28年度中の法人事務機能統一と法人の安定経営に努める委員会を目指す。

3 危機管理委員会

平成27年度の危機管理委員会では、法人職員の危機管理意識を向上させる委員会として計画実践をした。前年度では事業所の体制や危機管理マニュアルの整備、防災備品等の整備ができた。今年度は実際に職員に対しての実践を少しでも出来る様な企画を行った。

特に各事業所で開催した“災害ワーキング”の開催では、各事業所の防災備品を持ち出し、使用方法や緊急時対応の学びを行う事が出来た。体験をした職員の感想も災害意識の向上を感じる感想を得たので今後も開催し危機管理意識を高めることを感じた。

また、法人間でも衛星電話の設置に伴い、毎月の委員会開催日に衛星電話の使用を試す機会も今年度の取り組みの中では良かったと感じる。一部の職員が取り扱うのではなく、誰でもが使用できるようにするよう毎月の委員会開催日に衛星電話の使用を行

った。一部の職員が取り扱う衛星電話ではなく、全職員に緊急時の連絡網として、また法人間の連絡が取れる周知にもなった。

2年間の危機管理委員会では、基本的な災害意識を周知できた。しかし今後はさらに危機管理体制の見直しや職員全員が危機管理対策へと対応できるようにすることなどの課題はたくさんある委員会だった。

委員会活動

災害ワーキング

野島断層視察見学

災害マニュアルフローチャート作成

各事業所衛星電話設置及び試行テストの開催

4 教育・研修委員会

(1) 27年度の開催目的

平成26年度に引き続き、法人の基本方針に掲げている「福祉に携わる職員の意義と使命を職員が理解し、福祉とは何か、人を支えるということはどういうことか等、福祉事業の原点をしっかりと再認識する」ことを主な目的として開催した。

(2) 開催した研修会

No.	研修会名	研修テーマ	開催日
1	チーフ、リーダー 研修会	部下、後輩に意図的・計画的指導をするために	2015/5/20
2		～より良いサービスに向けて～ 各事業所の強み、弱み、脅威を考える	2015/11/10
3		チーフ、リーダーの役割を明確に	2016/1/13
4		外部講師講演 企業組合 宇佐もん工房 代表理事 所紀光 氏	2016/3/25
5	新人研修会Ⅱ (1～3年未満)	利用者一人一人を知り、リスクを考える	2015/6/11
6	新人研修会Ⅰ (1年未満)	やりがいのある仕事のために、自分たちが考えること	2015/6/25
7			2015/9/10
8			2016/1/27
9	接遇研修会	心通うコミュニケーションを目ざして Yグローリー代表 近藤由枝氏	2015/7/8 2015/7/29
10	ハラスメント防止 研修会	快適な職場であるために こうち男女共同参画社会づくり財団	2015/8/12
			2015/8/21

		理事長 筒井早智子氏	
11	課長・管理者・主任等研修会	「お客さまの声」「苦情」に学ぶ ～お客さまの声を、業務品質向上につなぐ～ 日新火災海上保険株式会社 高知サービス支店長 平瀬實千成氏	2015/9/16
12	接遇研修会Ⅱ	相手の心を開くコミュニケーション Yグローリー代表 近藤由枝氏	2015/11/25
13	ストレスチェック研修会	ストレスチェック制度について (社福)長い坂の会 事務局長 中越八束 氏	2016/2/24 2016/3/1
14	平成 27 年度報告会	(1)やすらぎの家、ほのぼのの家、平成福祉専門学校 (2)うららか春陽荘、うららか保育園 (3)在宅介護センターわかくさ	2017/3/3 2017/3/11 2017/3/18

5 保健衛生委員会

(1) 27年度の活動目標

各施設の看護スタッフが健康管理についての共通認識を持ち、小児から高齢者まで一貫したサービスが提供できる体制作りと施設間での業務の統一化を図り、看護スタッフのスキルアップを目指していくことを目標に活動を行った。

(2) 主な活動内容

小児救急法研修、応急救護法研修、介護スタッフによる医療行為（喀痰吸引、経鼻、経管栄養法）実施指導者研修等の外部研修への参加、施設内研修では、一次救急救命法研修、季節感染症研修、防災ワーキングでの緊急時応急救護法研修を実施。委員会内では看護スタッフを対象に法人内の各施設間交流研修を行ってきた。

(3) 総括

施設内外の研修に積極的に参加し、委員会内で報告することで共通の知識とする事ができ、委員会としてスキルアップを図ることが出来た。しかし、スタッフ不足等の理由から外部研修の伝達研修を十分に実施することが出来なかった。

法人全体で行う季節感染症研修や防災ワーキングでの応急救護法等の研修では、事前に委員会内で内容や実施方法等を検討し、研修内容を統一して行ってきた。その中で各施設スタッフの意識やスタッフ数・業務内容等の違いが明らかになったため、今後統一化を図ることが課題である。

看護師による交流研修では、本年度は保育園、平成福祉専門学校での研修を実施した

結果、介護の現場とはまた違った視点での看護師の役割を理解することが出来た。特に、平成福祉での研修は授業内容や実習風景を知る事で自身を役割等を見直すことができ、更に学生が介護の現場へ出てからの一貫した指導に繋げていけるのではないかと考える。

一年間の活動の中で各施設それぞれの課題を確認しあい、委員会で話し合う事で各スタッフが理解し協力意識が持てるようになったことから、委員会としての基盤はできたと考える。

6 給食委員会

主な活動内容として、食中毒予防と災害時の食事提供について検討を行った。

食事を提供する上で最重要となる安全面に注目し、各事業所での食中毒への予防対応策などの共有を図った。基本的な対応については各事業所とも把握し実施しているものの、マニュアルの有無や周知方法についてのバラつきがあり、徹底した予防策を辞しするためには法人事業所としての統一化を図る必要がある。

災害時の食事提供については備蓄食料品での対応を考えているが、十分ではない可能性もあるため施設にある備品などを使い炊き出しの演習も行った。初めての取り組みであり、炊飯などは火力の不備等から上手く焚くことが出来なかったことや、発電機とオーブンレンジを使用しカップケーキを作ることが出来た等、やらなければ分からなかったことが多々あり、演習の重要性を実感した。

7 在宅福祉推進委員会

在宅福祉推進委員会は、各事業所にて『成果』が得られるようにと活動、取り組みを行ってきたが、平成27年度の委員会活動においては実施出来ていない。前年度からの取り組みである「連携の流れの整理と強化」については、委員会ではなく各事業所において営業活動等も含めた中、強化して行くという形になった。成果は全ての事業所ではないがみられた。特に各居宅介護支援事業所からの紹介率増の成果はあった。

今後も各事業所が連携の流れの中でどのような役割を果たし、どのような連携を図ればより効率よく目標が達成できるのか考え、委員会も活用しながら取り組んでいく。

8 高齢者生活改善委員会

法人施設のご利用者の生活が今より更に充実したものになるよう、定期の委員会では介護に対する考え方や各事業所での課題等を持ち寄り様々な検討を行った。各委員の介護に対する考え方や思いは当初はそれぞれ違っていたが、検討を重ねることによって委

員会としての介護の考え方がまとまった。委員会としては介護とは「当たり前の生活に近づけること」とし、「当たり前」とは「自己選択・自己決定の場面が存在すること」と考えた。この考え方を各事業所の各種会議や研修等で伝えることが行ってきたが、その手法等までは統一できていなかったため、事業所間でのバラつきもあり職員に浸透しているは言えない状況である。

その他には虐待防止啓発ポスターを更新し、虐待防止への意識付けを行った中でも初めての取り組みとして、委員による各事業所巡回を実施した。法人の職員としてではなく、ご利用者の家族の視点での巡回を実施した結果、普段の仕事の中では気が付かないような部分が見えたことは収穫であった。しかし、その巡回の意見集約、検討が年度内に実施できずそのままとなっている。

次年度は委員会としての介護の考え方を法人内に広めることを重点目標とし活動を行う。

9 広報委員会

(1) 広報誌について

広報誌の定期的な発行を行い各事業所の行事のみを掲載するのではなく、職員間の交流や趣味を掲載する事により職場のイメージアップにも繋がったのではと思われる。又、広報誌の用紙の変更行いコスト削減を行う。

(2) ホームページの管理について

各施設の広報委員が管理し定期的な更新をするようにしていたが、業務に追われ更新が出来ていないのが現状であった。来期については最低でも月に一度は更新する事を課題とする。

(3) 地域への PR 活動について

各広報委員が地域のイベント等をリサーチしPR活動の入り口とし地域のボランティア活動に参加させていただく。

平成 27 年 8 月 22 日 針木夏祭り 3 名の委員参加。

平成 27 年 9 月 5 日 朝倉小学校秋祭り 法人職員 1 名、委員 3 名参加。

平成 28 年 1 月 24 日 うららか春陽荘地域清掃活動 法人職員 1 名、委員 1 名参加。

又、法人 PR 活動の一環としてイベントジャンパーとポロシャツの作成を行い清掃活動、就職イベントに着用する。

(4) 法人パンフレット、ロゴマークについて

平成 28 年 3 月現在、法人パンフレットの在庫が殆どなく、ロゴマーク作成より法

人パンフレットの需要性が高い為、来年度は早急にパンフレット作成を検討する必要がある。